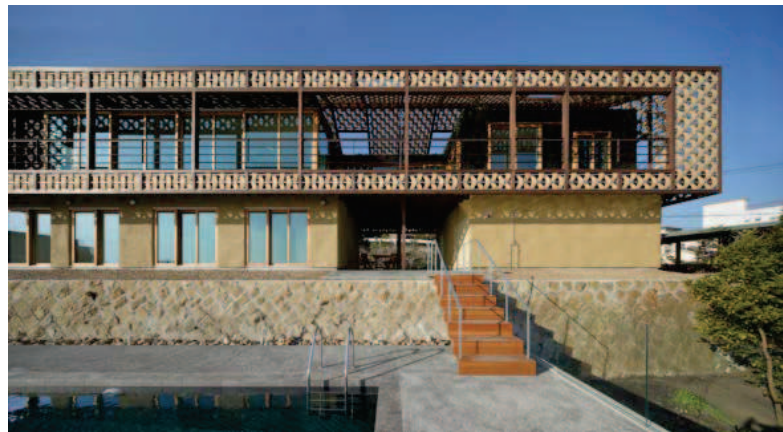


令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）要旨集

令和8年度
第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）要旨集



未来へつなぐ「まち・ひと・建築」 ～ 対話から生まれるかたち～

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

令和8年7月

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会



2026年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行者 **公益社団法人 日本建築士会連合会**

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061

日本建築士会連合会 女性委員会 ホームページのご案内

日本建築士会連合会女性委員会の活動や
全国女性建築士連絡協議会の動画、魅力
ある和の空間ガイドブックWEB版などを
掲載しています。ぜひご覧ください。



日本建築士会連合会 女性委員会 HP
<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>



魅力ある和の空間ガイドブックWEB版 ご案内

人々のライフスタイルが変化の中で、地域の環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続けています。なかでも日本の住まいの中で培われた和室や縁側といった和の空間がなくなりつつあることが危惧されています。このような状況をふまえ、女性委員会では2016年より「和の空間」をテーマに活動してきました。そして、「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築を紹介するガイドブック」を制作しました。

このガイドブックは、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から、「魅力的なもの、これからの居住環境への示唆に富んでいるもの」を、都道府県ごとに数点ずつ選んで紹介しています。和の空間をあらためて捉え直し、今後の設計活動、居住環境づくりに活かしていくこと、多くの方々に全国各地に現存する貴重な建築の魅力を広めることを目的としています。ぜひご利用ください。



おすすめの和の空間を紹介
 全国各都道府県の女性建築士が解説します

編著 日本建築士会連合会女性委員会 都道府県建築士会女性委員会（女性部会）
 日本建築士会連合会 女性委員会 魅力ある和の空間ガイドブックHP
<https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>



目次

1 ごあいさつ

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 石貫 方子	2
公益社団法人 日本建築士会連合会 会 長 古谷 誠章	3
公益社団法人 日本建築士会連合会 副 会 長 松山 久	4

2 令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会プログラム 5

3 会場案内図・オンライン配信案内 7

4 基調講演

「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」

講 師 末光 弘和氏+末光 陽子氏（SUEP.）	11
--------------------------	----

5 活動報告 12

「古民家の押し活を通じて地域の魅力発信」	京都府建築士会 徳光 都妃子	13
----------------------	----------------	----

「信州環境ECOコンテスト」	長野県建築士会 北村 あや香	17
----------------	----------------	----

6 被災地報告 21

「被災から15年『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」

宮城県建築士会 西條 由紀子	22
----------------	----

7 分科会 27

A分科会 「建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする」	28
--------------------------------------	----

B分科会 「建築教育の裾野拡大・次世代育成 ～人と人のつながりからの学び～」	33
--	----

C分科会 「次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～」	36
--	----

D分科会 「『NPO日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動について」	41
---------------------------------------	----

E分科会 「鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり」	47
---------------------------------	----

F分科会 「災害に備えて建築士が今、繋がる」	50
------------------------	----

8 建築士会女性委員会（部会）活動報告・アンケート集計 57

9 第68回全国大会「ぐんま大会」参加のご案内 74

10 令和9年度 第36回全国女性建築士連絡協議会 神奈川大会参加のご案内 82

1 ごあいさつ

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長
石貫 方子



令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会東京大会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。また、日頃より公益社団法人日本建築士会連合会女性委員会の活動に、ご支援ご指導を賜り心より御礼申し上げます。

さて今年度のテーマは、「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』～対話から生まれるかたち～」といたしました。基調講演では、ご夫婦で建築家のSUEP.の末光弘和氏+末光陽子氏に「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」と題してご講演いただきます。

活動報告では、京都府より古民家の押し活を通じて地域の魅力発信についてと、長野県より信州環境ECOコンテストについて、また被災地報告では、宮城県より被災から15年『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動報告をしていただきます。

2日目の分科会では「建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする～」 「建築教育の裾野拡大・次世代育成～人と人のつながりからの学び～」 「次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～」 「『NPO日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動」 「鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり」 「災害に備えて建築士が今、繋がる」の6つのテーマで行います。

近年、建築士会では会員減少と財政逼迫という課題があり、また全建女の費用面においても女性委員長会議の旅費補助が大きく占め、全建女地方大会においては開催県に多大なご負担をかけてしまうこともあって、来年度の全建女地方大会においては全国女性委員長会議を別の日にWEBで行うことにチャレンジしようと思っています。その分、今年の全建女東京大会では、同日に行う全国女性委員長会議を「対話」重視で行おうと思います。日本の少子高齢化に伴い若手建築士が減少し、建築士会会員も減少することから、工夫しながら会員を増やすとともに女性や若手の建築士を育成する活動と応援する「場」づくりを継続していきたいと思っています。

女性委員会は、女性建築士が自ら企画して運営する貴重な「学びの場」であり、出産や育児、介護などのキャリアイベントを抱えながら働くみなさまが、ともに相談し励まし合って課題解決を目指す場でもあると思います。47都道府県建築士会から次々と女性会長が誕生していますが、役職者としての割合はまだまだ少ない状況です。これからもたくさんの元気な女性建築士が建築士会から飛び出されることを願っています。

全建女の後にもいつも参加された皆様より「刺激をもらった」「元気をもらった」という感想をいただきます。今回の全建女を通して得た人脈や知識などをお土産に持って帰っていただいて、後輩たちにこの楽しさを伝え、みなさまがさらに元気になっていただくことをお願いしてご挨拶いたします。

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって

公益社団法人日本建築士会連合会
会長 古谷 誠章



こんにちは。去る6月に日本建築士会連合会の会長に再選され二期目となりました古谷誠章です。引き続きどうぞよろしくお願いします。開催にあたり主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本日は全国女性建築士連絡協議会（東京）を無事に開催の運びとなりました。誠におめでとうございます。ご参加いただいた皆さま、事前の準備に関わられたすべての会員諸姉に心より御礼申し上げます。

今年は、「未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～対話から生まれるかたち～」をテーマに、ご夫婦で活躍されるSUEP.の末光弘和氏、末光陽子氏を基調講演にお迎えして開催されるとのこと、光や熱のシミュレーションを駆使して自然と建築の共生を目指す手法をはじめ、建築家としての働き方も含めて考えることが主題と伺っています。とても今日的で、また女性ならではの視点でもあり、基調講演では「対話が紡ぐ建築デザイン、未来へつなぐ風・光・熱のかたち」と題されてお話が伺えるとのこと、私も大いに期待を寄せています。

自然と共生する建築のあり方については、現在の地球環境を考える上で非常に重要なテーマであり、今後の持続可能性を実現する上で、まさに今後の全人類に影響を及ぼすものだと考えます。

「サステイナブル・デザイン」が全米建築家協会（AIA）で提唱されたのが1990年代前半ですから、すでに30年以上が経過しています。私はこれが建築界から全世界へ向けて先駆的な提言であり、世の建築家が成し得た画期的な提言であったと思います。この間皆さんもご存知の通り、増大する大気中への二酸化炭素の放出を抑制すべく、世界中でさまざまな試みがなされてきています。さらに今日ではすでに建築の運用時の二酸化炭素放出だけでなく、建設時のアップフロントカーボンや、解体・転用時を含めたホールライフカーボンにまで視野を広げて検討するようになってきています。一方で一見すると目に見えにくい数値による計算のみが目立ってしまい、人が即座に実感できる具体的な方策との乖離があるように思います。そのような点について、お二人の実践を通して学ぶべきところがたくさんあるのではないかと考えます。

さまざまな活動報告の他、2日目の分科会においても多彩なテーマが用意されており、そこでも熱心な討議がなされるものと思います。この協議会を通して、皆さんと共にそのような問題について深く考えることを、大いに楽しみにしています。実り多い成果の上がることをお祈りします。

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会担当副会長
一般社団法人 鳥取県建築士会 会長
松山 久



全国女性建築士連絡協議会第35回大会の開催、誠におめでとうございます。

この度、日本建築士会連合会副会長に就任いたしました鳥取建築士会の松山久です。副会長として女性委員会を担当させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

女性委員会の皆様が、それぞれの地域で多様な活動を展開されている様子は、地元の建築士会を通じてよく拝見しておりました。大変素晴らしい取り組みだと感銘を受けると同時に、その活発なエネルギーに、私自身も大変元気づけられ、今後の展開にも大きな期待を寄せております。

全国女性建築士連絡協議会は、平成2年の第1回東京大会以降、毎年熱い議論と交流が重ねられ、今年度で第35回という節目を迎える歴史ある協議会となりました。これまでの歩みと、その輝かしい歴史に深く敬意を表します。

さて、今年度の東京大会は、テーマを『未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～対話から生まれるかたち～』とし、会場での参加とWEB配信を組み合わせたハイブリッド形式で開催されます。

私たちは日々の設計やまちづくりにおいて、多様な人々や地域社会、あるいは自然環境そのものとの「対話」を重ねることで、初めて本当に必要とされる空間をかたちにすることができます。他者と真摯に向き合い、言葉や思いを紡ぎ出すプロセスこそが、これからの建築士に求められる普遍的な職能ではないでしょうか。

初日の基調講演では、まさにその実践者である建築家ユニット・SUEP.の末光弘和氏と末光陽子氏をお迎えし、自然と建築が共生する環境建築デザインについて、「対話が紡ぐ環境デザイン」というテーマで深くお話しいただきます。

今の日本が直面している社会的課題に対し、「対話」を通じて未来への形を導き出そうとするこの全建女の活動は、女性ならではのしなやかな視点と確かな職能をもって、建築界の可能性をさらに大きく広げてくれるものと確信しております。

本協議会での立場を超えたフラットな対話が、ご参加の皆様にとって新たな気づきと全国の仲間との深い繋がりとなり、今後の活動の更なる発展に繋がることを心より祈念いたしまして、開催に際してのご挨拶とさせていただきます。

2 令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会プログラム

未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～対話から生まれるかたち～

令和8年7月19日（日）

全国女性委員長（部会長）会議

12:00～13:30 於：日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）

[受付] 13:45～14:00 於：日本建築学会建築会館ホワイエ / ZOOM

[開会式] 14:00～14:20 於：日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

総合司会 齊藤 裕美

- ・開会の辞
- ・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章
- ・委員会担当副会長挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 松山 久
- ・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 石貫 方子

= 休憩 14:20～14:30 =

[活動報告] 14:30～15:00 (30分)

- ・「古民家の押し活を通じて地域の魅力発信」 京都府建築士会 徳光都妃子
- ・「信州環境ECOコンテスト」 長野県建築士会 北村あや香

[被災地報告] 15:00～15:15 (15分)

- ・「被災から15年『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」 宮城県建築士会 西條由紀子

= 休憩 15:15～15:30 =

[基調講演] 15:30～17:00 (90分)

コーディネーター 松田まり子

- ・「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」
- 講 師 建築家・SUEP. 末光弘和氏+末光陽子氏
- ・質疑応答

= 休憩 17:00～17:15 =

[交流会] 17:15～18:30 (75分) 於：日本建築学会建築会館 ホール

司会 松田まり子

- ・ワンバイワン 17:15～17:30 (秋田・茨城・富山・兵庫・高知・鹿児島)
- ・交流会 17:30～18:30

令和8年7月20日（月・祝）

[分科会] 9:00～11:00（120分） 於：日本建築学会建築会館3・5階会議室 / ZOOM

- ・ A 分科会 建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする
 司会者：吉田 幸恵（北海道建築士会）
 松田まり子（沖縄県建築士会）
 コメンテーター：高橋 寿太郎（創造系不動産）
- ・ B 分科会 建築教育の裾野拡大・次世代育成 ～人と人のつながりからの学び～
 司会者：大泉みどり（山形県建築士会）
 コメンテーター：志田 文子（岩手県建築士会）
 コメンテーター：町田 裕子（岩手県建築士会）
 コメンテーター：斎藤 公美（MCL盛岡情報ビジネス＆デザイン専門学校）
- ・ C 分科会 次の世代にのこすために ～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～
 司会者：萩原 香（群馬建築士会）
 コメンテーター：久保田真理子（群馬建築士会）
- ・ D 分科会 「NPO日本バリアフリーコーディネーター協会」の活動について
 司会者：長瀬八州余（岐阜県建築士会）
 コメンテーター：桂川 麻里（岐阜県建築士会）
- ・ E 分科会 鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり
 司会者：畠中 みか（和歌山県建築士会）
 コメンテーター：笠木 和子（和歌山県建築士会）
- ・ F 分科会 災害に備えて 建築士が今、繋がる
 司会者：渡辺 睦（岡山県建築士会）
 コメンテーター：満原 早苗（佐賀県建築士会）
 コメンテーター：山本 周（建築プロンティアネット北陸）

= 全体会会場へ移動 11:00～11:15 =

[全体会] 11:15～12:00（45分） 於：日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

- | | | |
|------------------------------------|---------------------|-------|
| | 総合司会 | 齊藤 裕美 |
| ・ 分科会報告（3分×6分科会） | 各分科会司会者 | |
| ・ 全体総評 | 連合会女性副委員長 | 筒井 裕子 |
| ・ 主催挨拶 | 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 | 古谷 誠章 |
| ・ 令和8年度第35回全国女性建築士連絡協議会アピール | 連合会女性委員長 | 石貫 方子 |
| ・ 第68回全国大会ぐんま大会参加のご案内 | 群馬建築士会 会長 | 高橋 康夫 |
| ・ 令和9年度第36回全国女性建築士連絡協議会（神奈川）参加のご案内 | 神奈川県建築士会 大会実行委員長 | 茶谷 亜矢 |
| ・ 閉会の辞 | | |

3

会場案内図・オンライン配信案内

会場案内図・オンライン配信案内

会場案内図・オンライン配信案内

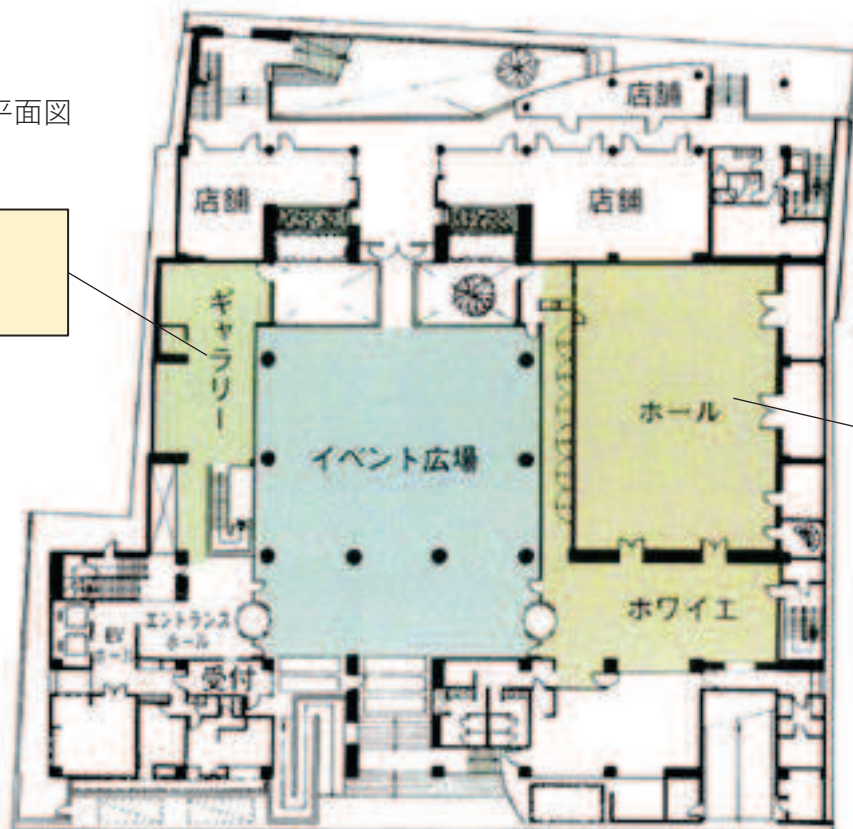
会場案内図・オンライン配信案内

- 会場案内図・オンライン配信案内



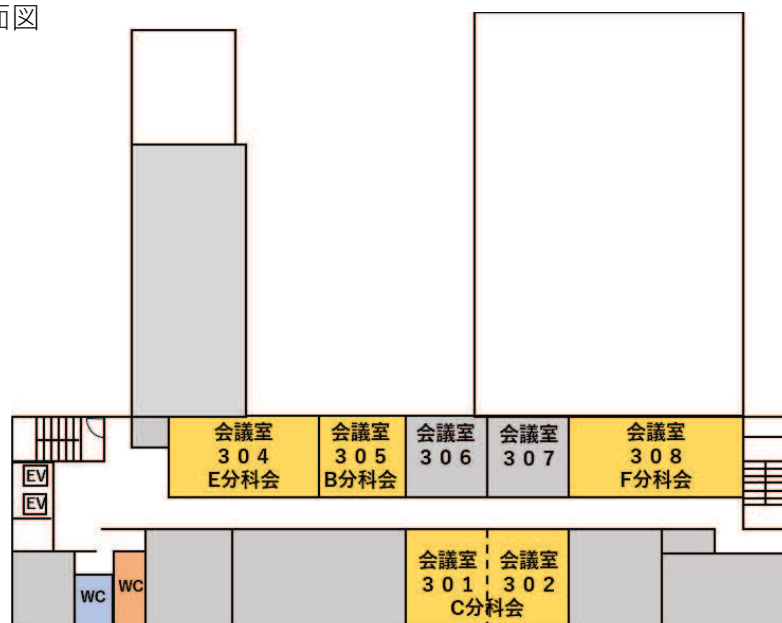
■ 建築会館 1階平面図

7月19日（日）
昼でおもてなし
プロジェクト

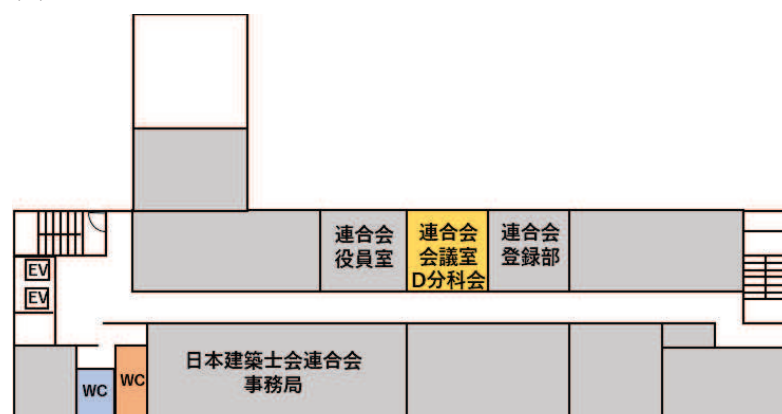


7月19日（日）
全国女性委員長
（部会長）会議
全体会会場
7月20日（月祝）
A分科会
全体会会場

■ 建築会館 3階平面図



■ 建築会館 5階平面図



オンライン配信案内

オンラインで参加予定の方は、下記事項をご理解の上参加をお願い致します。

■事前準備（ZOOMのダウンロード）

今回のオンライン配信は、全体会ではWEB会議システムZOOMウェビナーを、分科会ではZOOMミーティングを使用して行います。オンラインで視聴される方は事前に使用する端末へ下記よりZOOM最新版のダウンロード（無料）をお願いします。

<https://zoom.us/download>

ZOOMダウンロードのQRコード⇒



■視聴方法

オンライン配信の視聴URLは、事前にメールで通知する予定ですが、もし前々日（7月17日）までにURLの連絡がない場合は、日本建築士会連合会 事務局 榎本、竹田までご連絡ください。

日本建築士会連合会事務局03-3456-2061

メールアドレス jigyoy1@kenchikushikai.or.jp メールアドレスのQRコード⇒



視聴URLの案内メールは、カレンダーにコピーするなどわかりやすい場所に保存してください。なお、URLを参加者以外の人に教えたり、SNSなどでURLを発信する行為は控えてください。

■名前の表示ルール（参加者の管理を行いますので入力をお願いします）

- ・参加者 **・ 姓名（都道府県名）** 例）建築花子(東京)
- ・グループで参加の場合・ **・ 代表者の姓名（都道府県名）G** 例）建築花子(東京) G

■全体会 基調講演・活動報告・被災地報告（ZOOMウェビナー） 参加にあたってのお願い

- ・当日は録画を行い、後日連合会女性委員会のHPにてアーカイブとして動画を公開予定です。
- ・オンライン参加者による視聴中のスクリーンショットや録画、録音は固く禁じます。
- ・全体会では、参加者（主催者、発表者以外）はカメラやマイクの設定がありません。質問や連絡事項（音が聞こえにくい等）がある場合は、ZOOM画面の「Q&A」ボタンを押して内容を入力してください。
- ・基調講演や活動報告・被災地報告では、質問したい相手を最初に入力してから質問内容を入力してください。
- ・質問の最後に、所属士会（無所属の場合は「無所属」）とお名前の記入をお願いします。
- ・当日お答えできなかった質問に関しては、後日ホームページに回答を掲載する予定です。

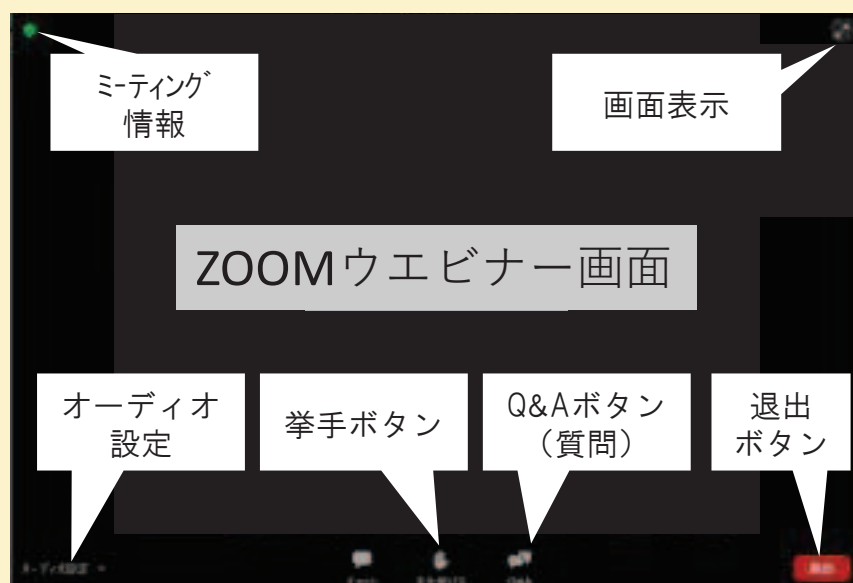
■分科会（ZOOMミーティング）参加にあたってのお願い

- ・分科会では、カメラやマイクの設定については司会者の指示に従ってください。

■視聴終了

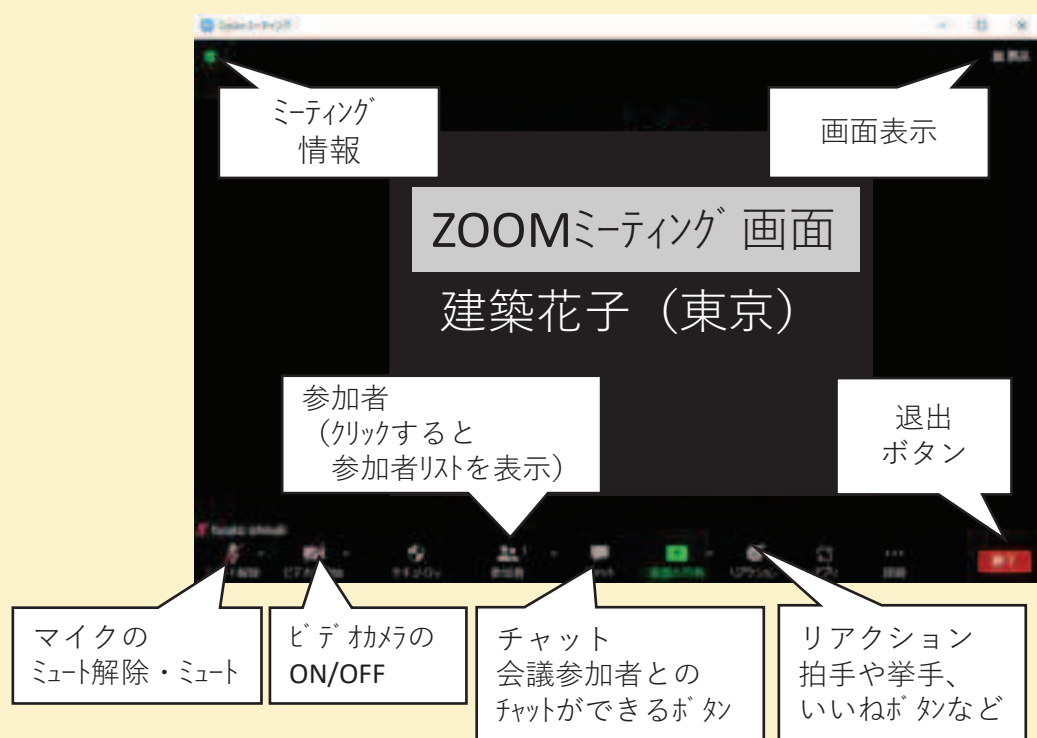
- ・「退出」ボタンを押して、ZOOMから退出してください。

■ ZOOMウェビナー画面の操作ボタン例（全体会 基調講演・活動報告・被災地報告）



※「手を挙げる」挙手ボタンは、司会者からの指示があるまでは押さないでください

■ ZOOMミーティング画面の操作ボタン例（分科会）



※ マイク、カメラのON/OFFについては、分科会開始時にはOFFとし、司会者からの指示に従ってください

※ 挙手ボタン等は、司会者からの指示があるまでは押さないでください

4 基調講演

SUEP.

Hirokazu Suemitsu & Yoko Suemitsu

SUEPは、末光弘和と末光陽子が主宰し、東京都福岡を2拠点に国内外で活動する建築家ユニット。地球環境やエネルギー問題をテーマに掲げ、風や熱などの様々な環境シミュレーション技術を駆使したデザイン、地域の素材を追求したデザイン、資源やエネルギー循環のデザインに至る自然と建築が共生する新しい時代の環境デザインを手がけている。



末光 弘和 Hirokazu Suemitsu

1976 愛媛県松山市生まれ
1999 東京大学建築学科卒業
2001 東京大学大学院修士課程修了
2001 - 2006 伊東豊雄建築設計事務所
(ヨーロッパ・シンガポールのプロジェクト担当)
2007 SUEP.
2020 - 九州大学大学院准教授

末光 陽子 Yoko Suemitsu

1974 福岡県八女市生まれ
1997 広島大学工学部第四類(建設系)卒業
1997 - 2003 佐藤総合計画
2003 - SUEP.

受賞歴／著書 Award／Publication

第29回芦原義信賞(日本建築美術工芸協会)、2018年度グッドデザイン賞金賞(経済産業大臣賞)、第27回吉岡賞(吉岡文庫育英会)、2017年2019年日本建築家協会環境建築賞(日本建築家協会)、平成30年日本建築工学会デザイン賞(日本建築工学会)他多数



淡路島の住宅 (個人住宅)



ミドリノオカテラス (コボラティブハウス)



LOOP Resort Nasu (保養所)



九州芸文館 Annex1 (ギャラリー)



Lyf Tenjin Fukuoka (ホテル)



ゾロー茶城(ショールーム+社員寮)



清里のグラスハウス(別荘)

5 活動報告

「古民家の押し活を通じて地域の魅力発信」
京都府建築士会 徳光都妃子

「信州環境E C Oコンテスト」
長野県建築士会 北村あや香



古民家の押し活を通じて地域の魅力発信

(一社) 京都府建築士会／ 徳光 都妃子

わたしは個人で「山田家活用フォーラム」と「醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会」というグループを立ち上げ、地域の魅力を再認識し、地元への愛着を育む「景観まちづくり」の視点から活動しています。建築士というよりは、むしろまちづくりのプレイヤーとしての側面が強いのですが、建築物は景観を構成する重要な要素であり、地域に点在する古民家を歴史的建造物として包括的に保全するまちをめざし、その魅力を発信する取り組みを始めました。

1. 活動のきっかけ



写真1
山田家住宅。醍醐の古民家調査では、醍醐寺に所縁のあったお宅を4軒調査した。

- ① 2010年 京都市文化財マネージャーとなる。
- ② 2012年 伝統建築保存・活用マネージャー上級講座を修了
- ③ 2016年 京都景観エリアマネジメント実践講座修了

上記のうち、②においては、修了レポートの作成にあたり、地元である京都市伏見区醍醐を調査対象として選定した。この調査を通じて、現在保存活用を進めている歴史的建造物「山田家」との出会いに至った。

醍醐地域の現状と課題認識

醍醐地域は、世界遺産である醍醐寺を中心に形成されており、周辺の住宅地は「バッファゾーン」として開発行為が制限されている。これは、世界遺産にふさわしい環境を長期的に維持するための重要な枠組みである。しかしながら、地域住民の間では、こうした保全意識が十分に浸透しているとは言い難い。

特に、個人所有の住宅が歴史的建造物として価値を有する場合であっても、地域全体でそれを守ろうとする意識が生まれてくれないという課題がある。

活動の視点と問題意識

こうした状況を踏まえ、「歴史的建造物を含む景観」を地域共有の財産として捉える視点を導入することで、公共的価値の認識が高まり得るのではないかと考えた。この問題意識を基盤として、地域における景観保全の実践活動に取り組むことを決意した。

また、醍醐寺前の旧奈良街道沿いに残る古民家が、近年相次いで姿を消している現状を目の当たりにし、歴史的景観の保全が喫緊の課題であると感じた。



写真2
2016年～21年にかけて、旧奈良街道沿いの古民家が8軒減失。

2. 実践への移行



写真3
2016年3月7日
醍醐三宝院白書院にて
設立総会

- 2015年 醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会設立
- 2022年 山田家活用フォーラム設立

醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会

地域の歴史を学び、魅力を発見・発信する活動。

山田家活用フォーラム

古民家山田家を拠点に、古民家の活用実践と古民家相談所として、未だ残る古民家の所有者のお困りごと相談所として活用。また、レンタルスペースやイベント会場として経済活動も始める。

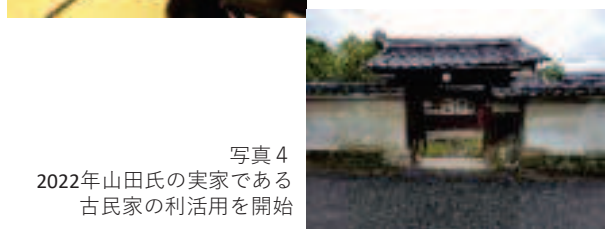


写真4
2022年山田氏の実家である
古民家の利活用を開始

3. 活動内容

醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会



写真5
平成27年 古民家だった自宅の建替えの外観デザインを古民家風にされた方のお話をきく



写真6
平成27年 醍醐小学校での家庭教育学級での講演「醍醐の歴史」



写真7
平成29年～令和4年 醍醐小学校の6年生への総合学習への協力



写真8
平成30年 伏見区民活動支援事業「写真集～今昔だご暮らし百景～」の発行

山田家活用フォーラム



写真9
朝鮮半島の手工芸ポジャギの作品展
建築士会の友人の作品



写真10
俳優榎原忠美氏の朗読会。まちづくりに関係するようなお話し。原作ジャン・ジオノ。



写真 1 1
令和4年から3回 山中雅博のニコニコおしゃべり音楽会
バイオリニストで声楽家の山中雅博氏をお招きしてのコンサート



写真 1 2
令和元年と2年 内山正一作品展
日本の古民家のミニチュア作家の作品で、近畿や東北、北関東のミニチュアを展示



写真 1 3
尊鉢さんのギターで歌おう会
音楽好きの高齢者の憩いの場となっている



写真 1 4
令和5年、瓦で誘導路作り（協力：NPO法人古材文化の会）
令和7年、新井財団の助成を受けて、薬医門の修繕事業（協力：NPO法人古材文化の会）

京都景観エリアマネージャー醍醐チーム

2024年、NPO法人京都景観フォーラムが主催する「京都景観エリアマネジメント講座」を受講したグループが、醍醐をテーマとした景観まちづくりのプランを発表した。これを契機として、2025年には「京都景観エリアマネージャー醍醐チーム」が立ち上がり、実践活動が始まった。山田家住宅は活動拠点としてチームを受け入れ、山田家活用フォーラムの徳光もOGとして参加した。

テーマの選定

まちづくりの要諦を「地元への愛着を育むことで、よりよい景観を生み、あるいは“守る”意識を顕在化させる活動」と捉え、醍醐地区の魅力となる要素を検討した。ここでは、醍醐寺以外の身近な名産物や名所に着目することとし、歴史を振り返る中で、醍醐地区がかつてお茶の名産地であったことを突き止め、「お茶」をテーマに活動を展開する方針を定めた。

方法

醍醐には多様な地域活動グループが存在しており、それらと横のつながりを持ちながらイベントを協働で実施し、“お茶のある風景”を発信していくことを構想した。しかし、各グループにはそれぞれ固有の目的や目標があり、共通の目的を掲げた活動を行うことが難しいことが判明した。そこで方向性を転換し、京都景観エリアマネージャー醍醐チーム単独でお茶に関するイベントを開催していくこととした。

イベントを開くには、資金が必要で伏見区の「区民活動支援事業」に応募した。

最終目標は、「醍醐大茶会」を開くことである。

4. 「お茶のある風景」生成過程

活動の流れ

- 2024年夏頃 「お茶」というテーマに会う
- 2025年3月 チームとして活動開始
- 2025年夏頃 地域の竹やぶに出会う
- 2025年11月 竹でモバイル茶室を手づくり開始
- 2026年3月 活動ネーミングを「醍醐茶コモン」とし
第1回コモン茶会開催する



写真15 山田家住宅を活動拠点とする。
当家は、醍醐寺の坊官を務めた由緒ある住宅。京都市の景観重要建造物で、旧醍醐寺境内として史跡認定されている。



写真17 山田家の三畳の茶室を模してスペース設計した。



写真18 茶室の名前を「u-庵」とする。「醍醐」の文字の「酉」へんを「ゆう」読むことにちなむ。また、「ゆう」の音に、誘・湧・友・遊・優・結という意味が庵のテーマである。



写真16 山田家のお向かいのお宅がもつ竹藪から竹を伐採する。
竹を加工する。
京都景観エリアマネージャー醍醐チームのメンバーは、9名。
竹の伐採や加工、仮組、リハーサルなどの作業を5回実施。



写真19 2026年3月15日 「u-庵」開き。地元の製茶屋の抹茶、地元のお菓子屋の菓子など醍醐に後だわったおもてなし。

5. 今後の展開

醍醐の氏神である長尾天満宮の「悠久祭」への参加をはじめ、醍醐地域内の公園や遊歩道など、さまざまな場面に u-庵 を登場させることで、醍醐の魅力を発信していきたいと考えている。最終的には、豊臣秀吉の「北野大茶会」や「醍醐の花見」にちなみ、「醍醐大茶会」を開催し、醍醐地区を代表する祭りとして伏見区をあげて実施されるようなイベントへと育てたい。

そして、この取り組みを通じて醍醐の活性化につなげていくことを目指している。

活動の様子は、醍醐茶コモンのInstagramをご覧ください→



信州環境ECOコンテスト

(公社)長野県建築士会 青年・女性委員会 北村あや香

はじめに

信州環境ECOコンテストは、長野県建築士会が主催し青年・女性委員会が主体となって行っている、高校生や学生を対象としたデザインコンテストです。

県内の工業高校や建築系学科だけでなく、普通科や専門学校など幅広い生徒・学生を対象として実施しており、平成20年度に第1回を開催して以来、現在まで継続して開催しています。

本報告では、信州環境ECOコンテストの歩みと成果、そして活動が続ける中で見えてきた課題についてご紹介し、今後の建築士会活動について皆さまと考える機会としたいと思います。

1. 信州環境ECOコンテストのはじまり

信州環境ECOコンテストは、青年・女性委員会の中で「何か新しい活動ができないだろうか」という思いから生まれました。

当時の青年・女性委員会では、「長野県青年・女性建築士の集い」という関東甲信越建築士会ブロック大会（正式：関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会）の選考会を兼ねた支部活動報告会以外に、大きな事業はありませんでした。しかし、長野県全域から建築士が集まる組織だからこそ、一人ではできないことを仲間と一緒に実現できるのではないかという考えがありました。

当時の委員長のお話では、この活動は委員長主導ではなく、委員一人ひとりから「やってみよう」と募る中で生まれたそうです。

目指したのは、**高校生や大学生など若い世代とのつながりをつくり、建築士についてや、建築という仕事の面白さを知ってもらうこと**でした。そして、将来的には建築士を目指す若者を増やし、**建築業界の仲間を増やしていきたい**という思いがありました。

当初は、委員が非常勤講師をしている学校への呼びかけや、知人を通じた広報活動から始まりました。しかし当時は建築士会そのものの認知度も高くなく、学校側の理解を得ることも容易ではありませんでした。

夏休みの課題として活用してもらうことも考えましたが、既存のカリキュラムとの調整は難しく、すぐに成果が出るものではありませんでした。

それでも諦めずに学校訪問や広報活動を続け、試行錯誤を重ねた結果、平成20年度に第1回信州環境ECOコンテストが開催されました。



2. コンテストの発展とワークショップ活動

第1回コンテストのテーマは「県産材を活用したバスストップ」でした。長野県の工業高校長会などへ出向き、直接広報活動を行った結果、105作品の応募をいただきました。

1次審査は委員会内で発想力やプレゼン能力、地域性やECOに関することなどを審査し、2次審査では生徒・学生によるプレゼンテーションが行われました。

発表の場は、県内の建築士会主催のイベント内で、建築士を前にして発表するという形式は、生徒たちにとっても大きな挑戦だったと思います。

審査員として、**長野県建築士会会長をはじめ、長野県建設部、長野県デザイン振興協会など、建築やデザインに関わる方々と生徒・学生が直接交流する**良い機会となりました。

私自身は平成25年度頃からこの活動に関わるようになりました。

当時のテーマが「簡易間仕切りトイレ」であり、東日本大震災後の防災意識の高まりを背景に、防災や避難生活を意識した課題設定が行われていました。

この頃から、作品募集だけではなく、建築士が学校へ出向く活動にも力を入れるようになりました。

各学校へ委員自らチラシを届け、コンテストの趣旨を直接説明し、希望する学校ではワークショップも開催しました。

ワークショップでは、**建築士が生徒たちと直接対話**しながら課題に取り組みます。

建築士にとっては当たり前の知識でも、生徒たちからは新鮮な視点や自由な発想が数多く出されます。

その交流は、**生徒にとって建築士という職業を身近に感じる機会**となるだけでなく、私たち**建築士自身にとっても学びの多い時間**でした。

普段の業務では意識することの少ない仕事の責任や社会的役割について、改めて考えるきっかけにもなりました。



3. 活動の成果

平成30年度には、建築課程のある学校だけでなく、長野県内すべての高校へ募集案内を広げました。その結果、普通科高校からの応募も増え、応募数は100作品を超えることが当たり前となりました。

多い年には330作品以上の応募をいただくまでになり、活動は県内各地へ広がっていきました。

現在では、ワークショップも学校から授業の一環として依頼をいただけるようになっています。

先生方からは、「**実際に現場で働く建築士の話にはリアリティがある**」「**生徒にとって刺激のある学びになっている**」という評価もいただいています。

こうした活動が実現できているのは、先輩方が長年にわたり築いてきた建築士会への信頼があってこそだと感じています。



また、この活動をきっかけに建築業界へ進んだ方もいます。

ある建築士の方は、高校2年生の時に信州環境ECOコンテストへ参加しました。

夏休みの課題として取り組み、設計もプレゼンテーションも初めての経験だったそうです。地元である天龍村をコンセプトに取り入れた提案を行い、その作品は奨励賞を受賞しました。

「**自分の考えを認めてもらえたようでうれしかった**」と当時を振り返ってくださいました。

そして、「**自ら考え、形にする体験を、これからの学生にもぜひ経験してほしい**」とも話してくださいました。

この方は現在、建築士として活躍されています。

信州環境ECOコンテストが将来の進路選択に影響を与えた事例の一つであり、この活動が担い手育成につながっていることを実感できる出来事でした。



4. 活動を続ける中で見えてきた課題

しかし、この活動は青年・女性委員会にとって決して負担の小さいものではありませんでした。テーマの検討、チラシ作成、学校への広報活動、ワークショップの実施、審査会の運営など、多くの時間と人手を必要とします。

特にワークショップは平日の授業時間内に実施されるため、参加する建築士は本業の時間を調整して学校へ伺う必要があります。

長野県建築士会青年・女性委員会は、全国的に見ても活動が活発な委員会として評価をいただくことがあります。

私たちもそのことを誇りに思っていますが、その一方で、人手不足や働き方の変化など、建築業界を取り巻く環境は大きく変化しています。

活動の意義を理解しながらも、限られた人員の中で継続していく難しさを感じる場面は年々増えているように思います。

それでも、この活動には確かな成果があります。

「建築士になってくれた若者がいること」

「建築士と生徒が交流できること」

そして、「長野県全域の青年・女性委員が一つの目標に向かって取り組めること」です。

おわりに

発足当時の委員長のお話を振り返ると、この活動は「若い人とのつながりを作りたい」「将来の担い手を増やしたい」「将来一緒に仕事ができる仲間を増やしたい」という思いから始まったものでした。

今まさに、当時の先輩方が描いていた形となって、この活動を続けています。

時代は変わりましたが、建築業界の人材不足という課題は、むしろ当時より深刻になっているようにも感じます。だからこそ、この活動を単なるコンテストとしてではなく、将来の担い手づくりという視点で改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

一方で、活動を支える建築士自身も厳しい環境の中で仕事をしています。

活動を続けることそのものを目的とするのではなく、その**目的や価値をどのような形で次世代へ引き継いでいくのか**。また、時代に合わせてどのような運営方法や関わり方が求められているのか。

長野県の事例をご紹介することで、全国で活動されている皆さまと課題や工夫を共有し、これからの建築士会活動について一緒に考える機会となれば幸いです。



6 被災地報告

「被災から15 年
『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」
宮城県建築士会 西條由紀子



「プロジェクト」の立上げと、記憶の可視化

その時まで、そこで暮らした証をたどる作業

気仙沼市・石巻市・東松島市・仙台市・名取市・亶理町・山元町



震災までそこにあった家の間取り図と暮らしを記録して、アルバムのように装丁して贈呈します
「宝物」と、喜んでいただきました



コロナ禍による中断と、記憶を残す冊子の発行

暮らしと町の記憶を残せるものをつくる





コロナ禍による中断と 記憶を伝える冊子の発行 クラウドファンディングへの挑戦



ひとつ、ひとつの建物が まちの記憶をつくってきた



被災から15年を経て、記憶を繋げる活動へ
元住民と現地をめぐり話を聴くツアー



記憶の中の住まい 仙台荒浜ツアー

震災前の「間取り図」から暮らしの記憶をたどる



津波で被災された住宅の前に立ったとき

「ここでどんな暮らしをされていたんだろう」

と問いを巡らせたことはありませんか。

このツアーでは、仙台・荒浜に暮らしていた3名の方から、当時住んでいた思い出の場所で「ご自宅の間取り図」をもとに「記憶の中の住まい（生活の様子）」を伺います。ツアーのあと、どんな景色が見えてくるか。楽しみに是非ご参加ください！

開催概要

2025 **11.16** [日]

集合時間 9:30 (13:30 終了予定)

集合場所 荒浜里海ロッジ (仙台市若林区荒浜)
※詳細はご参加の方に直接ご連絡

定員 20名程度 (先着順)

参加費 無料

持ち物 冊子「記憶の中の住まい」 ※持ちでない方は当日購入可能
※該当冊子の当日配布も可能です。

※雨天中止 (小雨決行)

運営・お問い合わせ

主催 国境なき劇団
共催 一般社団法人 宮城県建築士会 女性部会
協力 荒浜里海ロッジ、海辺の図書館、3.11 オモイデアーカイブズ、
さんだい 3.11 メモリアル文芸館
記録写真 西達 博一
記録動画 阿部 村西
コーディネート 佐藤 敏行 (国境なき劇団・TOHOKU 2011 Project)
後援 復興庁
連絡先 国境なき劇団 (佐藤) toshiyuki.sato@gmail.com

当日の流れ (予定)

- 9:30 集合 (荒浜里海ロッジ)
オリエンテーション
『荒浜の紹介』 (貴田喜一さん)
- 9:45 冊子を片手に、荒浜のまち歩き
(進行、聞き手: 佐藤正実さん)
① 貴田邸 (お話し: 貴田喜一さん)
② 庄子邸 (お話し: 庄子謙弘さん)
③ 佐藤邸 (お話し: 佐藤優子さん)
- 12:30 軽食と交流: 荒浜里海ロッジ
- 13:30 解散

申込方法

お申込みはGoogleフォーム
<https://forms.gle/r4GkCMbuckmfwc1h5M6>
もしくは、
toshiyuki.sato@gmail.com
までご連絡ください。



「記憶の中の住まい」とは？

東日本大震災の津波は家園のみならず、何百年間々と続いてきた「暮らし」も流しました。震災2年後の2013年、東京と宮城の女性建築家のメンバーがその経験を話し「震災で失った家の間取り図を作成し、形に残す」活動、「記憶の中の住まいプロジェクト」を開始。被災された方から、失った住まいや暮らしのお話を伺い、作成した家の間取り図に話の記録を添えて「アルバム」のページとしてお渡しするものでしたが、話は家屋の暮らしのみならず、地域の思い出や歴史などにも及びました。

今い体験や空気感を第2者に伝えることで「気持ちも軽くなる」という目的にもなったであろうこの活動は、現在も継続しています。

コロナ禍で活動を再開する機会になった際、日々変わっていく被災地の姿を目の当たりにし、13回忌を迎えたタイミングで「暮らしの記憶を繋いで、伝承に役立てることができれば」との思いから作成したものが「冊子「記憶の中の住まい」」です。

活動、および冊子購入のお問い合わせ

宮城県建築士会女性部会 toshiyuki.sato@gmail.com

「ここでどんな暮らしが……」

被災から15年、記憶を繋げる活動

冊子を手に、間取り図を見ながら

被災現地に立ち、

暮らしの様子を語って頂く

現地ツアーの開催

主催 国境なき劇団

共催 宮城県建築士会女性部会

仙台市若林区荒浜の様子

被災後の松林



夏は賑わった震災前の深沼海水浴場→



基礎だけ残り震災遺構に



津波でえくれた路盤



深沼橋から荒浜の集落と海の方角を見る



記憶の中の住まい 仙台荒浜ツアー

元住民の方から、被災前の
暮らしの様子を聴く

2025年11月16日



取材メディア
NHK仙台、東北放送
朝日新聞、河北新報
読売新聞



ビアガーデンを楽しんだ
陸屋根の家



終了後に感想を
頂いた



ご清聴ありがとうございました



7 分科会

A分科会 建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする

B分科会 建築教育の裾野拡大・次世代育成 ～人と人のつながりからの学び～

C分科会 次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～

D分科会 「特定非営利活動法人日本バリアフリーコーディネーター協会」の
活動について

E分科会 鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり

F分科会 災害に備えて 建築士が今、繋がる

A分科会プログラム

■テーマ 建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする

■分科会の趣旨

本分科会は、建築と経営のあいだ、建築と不動産のあいだにある高い壁を取り払い、設計者が「不動産思考」を持つことで、変化の激しい時代を自分らしく生き抜くための新しい職能を築くことを目的としています。建物を設計する「つくる技術」に、土地探しや事業収支といった「つなげる知恵」を掛け合わせることで、建たない時代においてもクライアントに深く寄り添い、社会から真に求められる存在へとアップデートすることを目指します。高橋寿太郎氏の知見をヒントに、女性建築士ならではの感性や生活者視点を最大限に活かした、ライフステージに左右されない自由でしなやかなキャリアの可能性を共に描き出していきます。

■司会 松田まり子（沖縄県建築士会） アシスタント 吉田幸恵（北海道建築士会）

■コメンテーター



建築不動産コンサルタント

高橋 寿太郎 たかはし・じゅたろう

1975年大阪市生まれ。学生時代は京都工芸繊維大学にて建築家岸和郎に師事し、2000年に建築工学とデザインを大学院にて修了。2007年まで古市徹雄都市建築研究所で、住宅から商業施設、公共建築まで多くの設計業務を歴任。その後2011年まで東京の不動産会社で、分譲開発・仲介・管理・コンサルティングなど幅広く業務。2011年11月、建築と不動産のあいだを追究するという理念を掲げ、創造系不動産株式会社を創業。不動産の仲介業務とコンサルティング業務を軸に、建築家とのコラボレーション案件を多く手がける。

2012年に創造系不動産スクールを開講。2019年より、建築と不動産のあいだを追究する新規事業として、「いすみラーニングセンター」「創造系出版社」「建築家住宅手帖」「建築と経営のあいだ研究所」などの展開をはじめ。著書に『建築と不動産のあいだ』（学芸出版社2015年）、『建築と経営のあいだ』（学芸出版社2020年）、その他に共著を4冊執筆している。受賞に『これからの建築士賞』（東京建築士会2016）、『グッドデザイン賞』（2016年、2017年、2019年、2024年）、2022年4月より、神奈川大学建築学部教授に就任。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(10分)	9:00～9:10
2. コメンテーターによる講演	(50分)	9:10～10:00
3. 休憩	(10分)	10:00～10:10
4. 参加者とのトークディスカッション	(30分)	10:10～10:40
5. まとめ	(10分)	10:40～10:50

建築と不動産のあいだを追究します

建築と不動産のそれぞれの専門家がタッグを組み、建て主と伴走する。これが創造系不動産が目指す、建て主にとっての理想のプロセスです。

しかし残念ながら、そのフローは中央で分断されています。

建築と不動産のそれぞれの専門家たちの情報が、バトンパスされていないのです。

なぜなら建築と不動産のあいだには、大きな「壁」があるからです。

隣り合いながらも、独自に発展してきた2つの業界。

その壁を越えたコラボレーションを日本のスタンダードにすることが、私たちの使命です。

創造系不動産株式会社

代表取締役 高橋寿太郎



ABOUT

創造系不動産は、建築家や建築設計事務所からの依頼や協働業務に特化した不動産コンサルティング会社のパイオニアです。まだこのモデルが無かった 2011 年、建築設計事務所出身の高橋寿太郎によって創業されました。

創造系不動産は、建築設計出身のものづくりメンバーが集まりながらも、不動産業に特化するという独特の方法を選びました。多くの設計事務所や不動産会社、様々なメディアや業界団体や教育機関にその意義を伝道し、日本のひとつのモデルとして定着させた会社です。

建築と不動産のあいだを追究します

日本の建築と不動産の領域は、長い年月をかけて、それぞれが独自の発展を遂げました。共に世界に誇る技術や理論、システムを持っています。ただ一般の建て主の立場からは、この2つの業界の違いが分かりにくく、一方でそれぞれに従事する専門家の立場からは、これらのあいだには、大きな壁、または決定的な溝があります。残念ながら、それぞれの専門家が協力できない仕組みや制度になってしまっているのです。私たちが掲げる「建築と不動産のあいだを追究する」というコンセプトは、それぞれの専門家がタッグを組み、建て主に貢献することを言います。建て主にとっても、建築家にとっても、そして私たち不動産コンサルタントにとっても、このチーム編成はベストです。



建築と不動産のコラボモデルを日本のスタンダードにする

長年にわたって、この建築と不動産のあいだを追究した結果、やはりこの「あいだ」をつなげることは、建て主の利益だけでなく、これからの日本の建築不動産業界のあり方も変えます。

建築と不動産のあいだの壁を作っているのは、現場で働く人たちではありません。日本が経済成長する過程で形成された産業構造であり、商慣習であり、そして教育です。私たちは設計事務所と不動産会社がタッグを組むことで生まれる価値を、もっと多くの建築家や企業に理解して頂くように努め、必ず日本のスタンダードにします。



創造系が目指す長期的なサイクル

しかしそれがなぜ簡単ではないのか。建築業界と不動産業界はどう改革されていくべきか。作り手主導、売り手主導のシステムをいかに改善するか。そしてこれからの時代を創る意識の高い社員をどう育成していけばいいか。それらが、いま私たちのとってのテーマです。創造系不動産が生み出す数々の新規事業は、将来の後進を輩出し、業界を改革し、日本の社会課題に取り組むために、長期的な視点で行われています。私たちは未来のための礎のひとつでありたいと考えています。

1 建主に
貢献する

- ・建築家と不動産のタッグで安心の建替づくり
- ・不動産探しや融資のサービス
- ・土地取得後の建替完成までのフォロー

2 後進を
輩出する

- ・建築出身者に不動産の高水準の教育
- ・横断的な広い視野の獲得の機会
- ・社口部署の支援

3 業界を
改革する

- ・設計事務所専属の不動産業の一般化
- ・不動産業のさらなる透明化
- ・建築と不動産、両業界の融合

4 社会を
良くする

- ・誰もが豊かな建築家住宅の選択機
- ・日本の空き家流通の活性化のための試行

創造系のあゆみ

こうした長期的な育成思考は、創業時からおぼろげにありました。スクール事業は、創業の翌年から始まっています。また創造系不動産の新規事業の多くは、教育に関わるものです。創造系不動産は、不動産会社であると同時に、教育事業者でありたいと思っています。私たちの考えを理解して頂ける設計事務所の皆さんや、共に歩んでくれるメンバーと共に、これからも建築と不動産のあいだを追究し続けたいと思います。



PROJECT CASE



AATISMO
『ハニヤスの家』



左：ウルトラスタジオ
『上原坂道の集合住宅』

右：増田大坪
『街の家』



左：青木弘司
『相模原の住宅』

右：北沢伸浩
『笹沼邸』

BOOK



建築と不動産のあいだ

「建築と不動産のあいだには“壁”がある」。業界構造を捉えなおす書籍。建て主が大切にしたいビジョンを、ローンや資産形成、そして不動産を通して、建築へとバトンをつなぐフローを紹介。



建築と経営のあいだ

「建築士が着目すべきは、建築の与条件と“未条件”である」。設計事務所経営の6ピース（技術・販路・理念・会計・人と組織・仕組み）を網羅的に解説する。建築界に向けた初の経営書。



設計者のための建築不動産 コンサルティングのはじめかた

インフレを超えていくために、設計の前後期で「建築企画」と「不動産コンサル」が融合する事業主の時代を設計者がリードしていく具体的な方法論と事例集。

B分科会プログラム

■テーマ 建築教育の裾野拡大・次世代育成～人と人のつながりからの学び～

■分科会の趣旨

当分科会では、今年で4年目を迎える「ダンボールハウス」ワークショップと、昨年度実施した中学校家庭科出前授業「パズルで住まいを考えよう」を通して教育現場との連携で感じたこと、学んだことこれからの取り組みについてお伝えいたします。

①「ダンボールハウス」ワークショップ

当時、子育て世代の女性建築士が、子供連れでも参加出来る環境を模索していました。そんな中、一級建築士事務所 studio ktm 釜田氏から「ダンボールハウスワークショップ」のお話を聞き、女性委員会の活動に合わせて開催してみてもどうかと考え、初めは小規模な会場で試験的に開催しました。この取り組みは段階的に発展を遂げ、北上市ひきこもり地域支援センター事業所での開催、盛岡市内の専門学校デザイン科との共同開催へと繋がり、さらに今年度は短大の学祭での開催が予定されています。

②出前授業「パズルで住まいを考えよう」

技術科講師を兼任する建築士との人的ネットワークを通じて、中学校の家庭科出前授業講師派遣の依頼を受けました。家庭科の授業内で「パズルで住まいを考えよう」というプログラムを実施し、教育現場との連携が具体化しています。

■司会 大泉 みどり（山形県建築士会）

■コメンテーター 志田 文子（岩手県建築士会）
町田 裕子（岩手県建築士会）
斎藤 公美様（盛岡情報ビジネス＆デザイン専門学校デザイン科教員）

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～ 9:05
2. コメンテーターによる報告①	(20分)	9:05～ 9:25
3. コメンテーターによる報告②	(20分)	9:25～ 9:45
4. 材料・資料紹介	(20分)	9:45～ 10:05
4. 質疑・意見交換	(40分)	10:05～ 10:55
5. まとめ	(15分)	10:55～ 11:00

①「ダンボールハウス」ワークショップ

一級建築士事務所 studio ktm 釜田 翼

こどもの空間教育に

梱包などに使われる巻き段ボールを立て、はさみで扉や窓などを作り、子どもたちが自分のおうちを作っていくワークショップです。

はじめは、ただの立てられた丸いダンボールですが、中に入ると子どもが自分の空間として認識する瞬間が毎回みられます。あとは窓をたくさん空けたり、扉に鍵や表札を作ったりと、子どもたちが自由に自分の空間を作っていきます。まるで貰ったものを大切にするように、自分たちの空間を作っていく姿から、子供たちの個性に気付かされることも多いです。出来上がったおうちが並べられていくと、そこには子どもたちの街が現れます。低いダンボールで出来た道は、子供の目線には路地の様に見え、迷路のように歩いて遊ぶことも・・・。

作ったおうちは、丸めて持ち帰ってもらうことも出来るので、お家でも自分の空間として楽しんでもらっています。



私たちの建築活動をもっと身近に

岩手県内では建築の勉強ができる学校が少なく、他県に比べて建築の活動が目立たないのが現状です。建築士の仕事が良く分からないという方も多く、社会的な認知度もニーズも低く感じています。そういった中で、県内の一般の方々に対して建築の活動を広めていくこと、身近に感じてもらうことを大きな目標として、子どもたちへのワークショップを企画してきました。建築士の印象を変えていきたいのと設計以外でも私たちが出来ることを知ってもらいたいという思いがあります。

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 教員 斎藤 公美

幼少期から建築・空間デザインに触れる機会を



建築を学ぶ学生・卒業生と関わる中で、地域や業界のためにも、建築に興味を持つ人を増やしたいと思っています。

学生に建築を志したきっかけを尋ねると、「子どもの頃に家族が家を建てた」「親戚に大工など建築を生業とする人がいた」等、幼少期に建築に触れる機会があった人が多い傾向にあります。学校では模型制作やCADの体験授業を行っていますが、より小さなお子さんでも建築や空間を意識できる機会を作れたら建築に興味を持つ人がさらに増えるのではないかと考えていました。

原寸大で空間をつくる・考える

建築士会の志田さん・釜田さんから「ダンボールハウスワークショップ」のお話をいただき、子どもでも楽しめる内容であることに加え、原寸大での空間体験ができる点に魅力を感じました。本校の設備環境では、学生が原寸大で空間を考える経験が不足しがちであったため、学生も運営側として関わらせていただく運びとなりました。子どもたちの「こういうものを作りたい!」を一緒に形にしていく経験は、学生にとっても有意義な時間となりました。

(一社) 岩手県建築士会女性委員会 志田 文子

人と人のつながり

最初は小規模な活動であったものが、人と人につながりを通じて各種学校との連携へと発展している。建築教育の裾野拡大と次世代育成に寄与すると共に、建築士として子どもの発想や学生達の感覚を学べる機会となっているのではないかと感じています。

② 出前授業「パズルで住まいを考えよう」

— 建築士の専門性を活かした中学校での住教育の実践 —

(一社) 岩手県建築士会女性委員会 町田 裕子

はじめに

本活動は、中学校家庭科「住まいの学習」と連携し、建築士が講師となって実施した住教育の出前授業です。きっかけは、県女性委員会総会でダンボールハウスワークショップ等の活動発表を聞いた学校教員でもある建築士から「模型や実践的な教材を用いて住まいについて学ぶ授業ができないか」と相談を受けたことでした。

住まいは誰にとっても身近な存在である一方、生徒が自ら住空間について考える機会は多くありません。そこで、楽しみながら住まいについて考えられる授業を企画しました。



部屋カード・家具カードなどをグループごとに配布



間取りがまとまったら一気にカードを貼り付けていく

授業内容

対象は中学2年生30名程で、4～6人のグループに分かれ部屋カードや家具カードを用いて理想の住まいを計画しました。

テーマは『グループメンバー全員で暮らす家』。それぞれの個室を作ること・水回りは一か所・グループ皆で使う特別な部屋を設けること、などを設計条件として提示しました。

部屋カードを敷地に貼り付けて間取りを作成し、最後はグループごとに発表を行いました。部屋の広さや配置に正解は設けず、生徒一人ひとりの価値観や理想の暮らし方を自由に表現できるよう、グループで話し合いながら進行了しました。



工夫したところ ⇒ 共有できる部屋をたくさん作った

成果と生徒の反応

完成した作品には、『夜食王』『親ガチャ大成功☆』など、グループごとにユニークな名称が付けられ、それぞれの価値観や暮らし方が反映された個性的な住まいが提案されました。

授業後のレポートでは、「個室と共有スペースのバランスが良い」「みんなが集まれる場所がある」「部屋の配置や動線が工夫されている」などの感想が多く見られました。また、「自分の理想の家を考えることができた」という意見も多く、生徒が主体的に住まいについて考える機会となったことがうかがえました。住まいを単なる建物としてではなく、「どのように暮らしたいか」を考える教材として活用できたことは大きな成果でした。

今後の展望

今回の実践を通して、住教育は建築の知識を伝えるだけでなく生徒が自分自身の暮らしや一緒に暮らす人との関わりを考える機会になることを実感しました。今後も学校と連携しながら継続的に実施し、地域に根ざした住教育活動へ発展させていきたいと思っています。



【生徒の感想より】

- ・いろいろな班がいろいろな個性でおもしろかった
- ・みんなで間取りを考えられてとても楽しかった
- ・少し建築の仕事に興味をもてた

C分科会プログラム

■**テーマ** 次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～

■分科会の趣旨

群馬県桐生市にある『後藤織物』は、創業明治3(1870)年。近代日本の織物産業の象徴となるノコギリ屋根工場をもつ、桐生を代表する近代化産業遺産です。工場、主屋等の建築群が国登録有形文化財、近代産業遺産、ぐんま絹遺産、日本遺産に指定されており、この建築群の構成が織物生産のシステムをそのまま現わしています。

令和3(2021)年、機屋(はたや)としての歴史に幕を閉じ、地元有志の民間企業が出資しあって立ち上げた会社、テクスト桐生(株)に所有権が移りました。今後の保存活用の計画を立てるにあたり、令和4(2022)年より後藤織物の総合調査を行いました。そして今年、報告書が完成しました。これまでの調査や報告書作成を通して学んだこと、修復、活用の勉強で台湾に行って学んだことについてお話し、今後について一緒に考えていきたいと思います。

■**司 会** 萩原 香(群馬建築士会) **アシスタント** 関 美和子(群馬建築士会)
竹島 比佐子(神奈川県建築士会)

■**コメンテーター** 久保田 眞理子(群馬建築士会)

「図面データをまとめて体裁を整える人が必要」ということで、PC作業なら私でもお手伝いできるかも。と思い途中参加した「後藤織物総合調査」。現場に行くとなぜか「井戸屋形の調査やってくれる？」から始まり、「門と塀も・・・」となり、「配置図と植栽もおねがいね」となりました。話が違う…。調査を始めましたが、庭の植栽を見ながら立ち尽くしたこと多数。門の寸法を測っても、図面にすると気づくことが次から次へとあらわれ、再度測り直し。そんなことを繰り返し、やっとできた図面。これで終了と思ったら、報告文章を書くことになりました。右往左往しながらなんとかたどり着いた報告書。初心者でもなんとかしたのは、仲間のサポートのおかげです。

■分科会の進め方

- | | | |
|-----------------|-------|-------------|
| 1. 進行説明 | (05分) | 9:00～9:05 |
| 2. コメンテーターによる報告 | (50分) | 9:05～9:55 |
| 4. 質疑・意見交換 | (50分) | 9:55～10:45 |
| (次の世代にのこすために) | | |
| 5. まとめ | (15分) | 10:45～11:00 |



コウバ



昭和19年頃



稲荷・
タンク



昭和16年頃

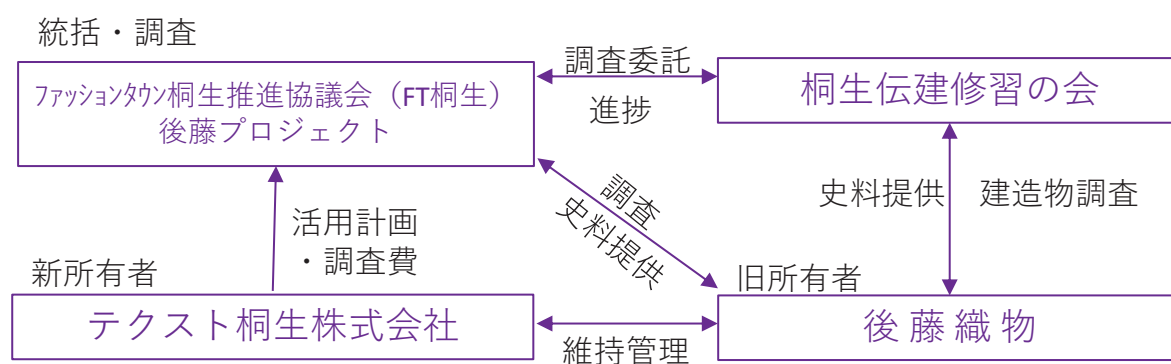


主屋



昭和初期

後藤織物総合調査 組織関係図



近世から現代まで発展をとげた織物業のまち・桐生にあって、
唯一今日に残された近代初期創業以来の行まいを保つ織物工場

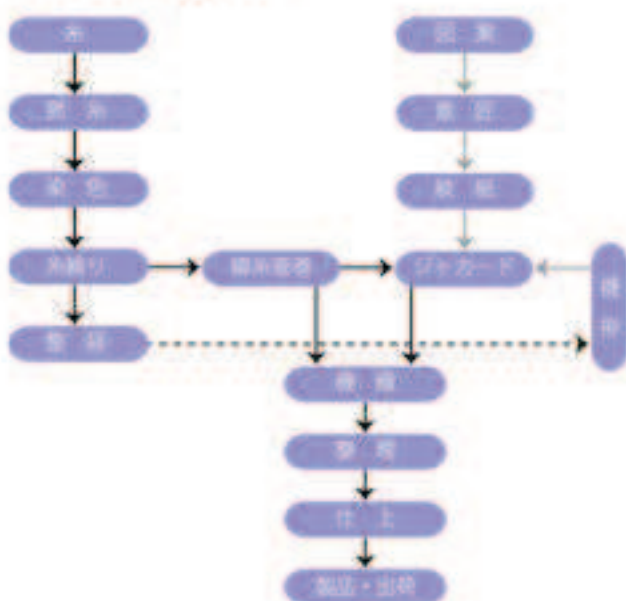
後藤織物

群馬県桐生市東1丁目11～35

平成18年 国登録有形文化財（文化庁）
平成19年 近代産業遺産（経済産業省）
平成23年 くまもと遺産（群馬県）
平成27年 日本遺産（文化庁）

全国有数の織物のまちとして栄えた桐生において、「後藤織物（以下、「後藤」と称す）」は明治3年（1870）に後藤定吉によって創業された。以降、社会の影響を強く受けた盛衰を経ながらも、現在まで五代にわたり、織物業を続けている。「後藤」では、桐生において有数の織物の一貫工場として、染色、整経、製織、仕上げといった作業がおこなわれた。その生産システムは店を兼ねた主人の住いから、各工程の作業場に至る一連の工場施設として、敷地内に配されている。近代初期の創業時の「機屋」の行まいを継承しつつ発展を遂げた、桐生において唯一の近代織物生産システムが完存する工場の遺構である。

後藤の織物生産システム



創業者 後藤定吉



後藤定吉は嘉永元年（1847）、現在の桐生市東1丁目に生まれ、明治3年（1870）に現地で織物業を始めた。同11年（1878）群馬県令の許可を得て、森山吾平らとともに群馬県立学校の質問生（聴講生）となり、同学校の理化学教員・小山健三から化学・染色を明治13年（1880）まで学び、いち早く桐生に西洋式染色技術を導入した。

同10年（1877）に楊柳織機（絹織機）を製織、12年（1879）に南京織子を操作・観光織子を改良し、18年（1885）には後藤織物の依頼で織入羽二重も改良した。さらに、25年（1892）には、需要機を改良して特許を取得するなど、桐生の織物業の発展に努めた。

定吉は、前職工夫して仕事を着実にこなす大柄だった。その仕事ぶりは、当時ロンドン大学に留学して西洋染色を学んだ京都の染物店主・船越源太郎が、ヨーロッパ第一の工芸士会・アルザス会に、定吉の業績を紹介していることからもうかがえる。織子地の紋織物「ばらんす」は同12年（1879）に商標登録に認可され、35年（1902）には実用新案に登録され、工場を建てるほどのヒット商品になった。明治43年（1910）、62歳で亡くなった。

井戸屋形

木造、鉄板葺
明治初期（1871）頃
ほぼ中央に直径1.4mの井戸が掘られているが、現在はコンクリート製蓋で覆われている。深さは不明だが、壁には川原石が積まれている。



給水塔

鉄骨コンクリート造、高さ5.7m
昭和7年（1932）
染色と生活用水に利用され、現在も生活用水として使用されている。高さ2mの4本の均角柱で貯水塔を支える。貯水塔は径2m、高さ1mほどあり、昭和10年代まで井戸水を汲み上げていた。



奥庭敷

木造、平屋建、桧瓦葺
明治27～29年（1894～1896）頃、大正13年（1924）頃増築
後藤定吉2世までは当主の生活の場であり、趣向は所が積まれて番客の場にも利用された。現在は常設展示して、接客・資料の部屋として用いている。



主屋

木造、二階建、鉄板葺
明治28年（1895）頃
主屋は南北2連の棟を持ち、後藤織物の変遷とともに複雑な改築履歴を持つ。明治23年（1890）南棟2階部増築、明治30年（1897）北棟西仕事場増築、大正14年（1925）北棟東ナガシ、フロア、北棟西2階部増築、昭和45年（1970）南棟東事務所改修。元は後藤家の住まいと従業員宿舎、織物工場、工場経営の事務や商売の場であった。現在は帯の制作、企画、加工と仕上げ、検品といった作業の他、事務所、応接間として利用されている。



企画：2020年6月／制作：後藤義正（デザイン）桐生市立博物館
協力：桐生市立博物館、群馬県立桐生大学名誉教授

西倉庫

本造、平屋建、鉄板葺、南側下屋付き
大正6年(1917)
間仕切りがあり2室に分けられている。穀
物の収蔵庫として使用されている。



東倉庫

本造、二階建、切妻造、瓦葺葺
大正6年(1917)
各壁下見板張り、南側に下屋を設ける。内
部は2室に分けられている。



撮影：吉野隆雅



表門及び板塀

表門 本造、切妻造、瓦葺、開口4.5m
板塀 本造、鉄板葺、延長25m
昭和6年(1931)頃
門は両側に1.5mの袖壁が設けられ扉を
引き込むようになっている。袖壁は腰壁
が下見板張り、上半部は漆喰壁。板塀は
門の左・右から袖壁に東・西に延びる。鉄
板葺の屋根は、以前は棟に瓦を積んでいた
が、平成23年(2011)の震災を受け、最
処置として下ろしている。



工場

本造、平屋建、切妻屋根及びノコギリ屋根、瓦葺及び
鉄板葺、併付
工場は当家では「コウ(1)」と
呼ばれる。昭和22年(1947)
コウ(1)1(切妻屋根)再建。
23年(1948)コウ(2)1(ノコ
ギリ屋根)再建。コウ(1)西
側増築。28年(1953)コウ(3)
(ノコギリ屋根)再建。32
年(1957)コウ(4)3(西側増
築(ノコギリ屋根))。39年
(1964)コウ(5)4再建(ノコ
ギリ屋根)
コウ(1)は、昭和19年(1944)
に取り壊された。明治期か
ら大正期にかけて建設され
た工場の再建である。増築
は製塩作業の継続に配慮
し、隣り合う棟間には双方
の柱が並列し、通廊状の空
間が生み出された。コウ(1)から
コウ(5)の再建の過程の中
で、時代とともに変化する
製物生産の実情に合わせて
増築が行われた工夫の
痕跡が随所に残る。



物置

本造、平屋建、鉄板葺、北側
下屋付き
大正5年(1916)頃
物置は味噌や醤油、漬物な
どの食料が保存され、一方
には機械部品、石炭・重油
などの燃料が保存されて
いた。



釜屋

本造、平屋建、鉄板葺
昭和23年(1948)再建
煎製の釜物の特徴は「先染
炊飯」であり、当然「後蒸」
でもこの手法を採用したた
め、工場建設にあたっては、
まず生米の染色場が備え
られた。染色場は当家では
「カマヤ」と呼ばれ、昭和
49年(1972)代まで営業を
行っていた。5重の天井が
ある煉瓦造の庫に、大・
中・小の釜が並べられ、
煙突の下半部も遺存する。
前身のカマヤは昭和11年
に建てられ、南側に寄附倉
が併設していた。現在のカ
マヤは、コウ(1)と同じく、
昭和19年(1944)に解体され
たのち、昭和23年(1948)
に再建されたものである。



糸倉庫(展示室)

本造、平屋建、瓦葺
大正6年(1917)頃
生糸を保管する倉庫。現在
は東側に車庫が増設され
ている。平成23年(2011)の
震災を受け、屋根は鉄板葺
に置き換えられた。「日本
遺産」認定後、展示室とし
て活用することとなり、内
外装の修繕をおこなった。

桐生伝建修習の会

2014年設立

住所：群馬県桐生市東1丁目11-35 (後藤蔵物内)
TEL：0277-79-0703 FAX：0277-79-0704
mail：k51@par.odn.ne.jp (加藤代表)

Vision

私たちの目指すところ

桐生のまちは近世・近代にかけて、製織産業により発展をとげ、アコギリ屋敷をはじめとする織物工場や、趣向を凝らした和洋折衷建物など、歴史的な建物が今日まで数多く残っています。

とくに近世初期に形成された地割と家々のたたずまいを今に残す本町一、二丁目と天神町一丁の一部は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

私たちは、日常の中で見失われがちな地域の歴史的価値を未来へ継承するために、桐生の歴史や文化を学び、価値を築くことのない修復と活用、知識や技術の習得を図るべく日々活動しています。そして、歴史的な建物とその景観を通じて、「ここに住んでよかった」と、地域の人々が感じられるような、今に生きる産業遺産のまち・桐生の実現を目指しています。

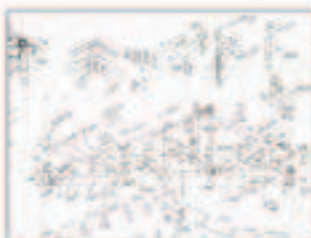
Action

私たちの取り組み

- ・歴史的な建物全体の調査及び修復
- ・伝建地区内の保存物件の調査及び修復
- ・技術研修会主催
- ・情報網、他団体との交流と情報交換



後藤蔵物 工場内部



Duty

私たちの役割

私は、日頃の設計業務のほかに「古い木造建物を知ることで伝統建築の理解が深まり、住環境が広がる」と考え、歴史的な建物の調査を行う集まりに参加しました。

それまでは行政が管轄する歴史的な建物が主で、担当別に決められた範囲を実地し、野帳をとり、写真におおして調査報告書と、という役割だけを行ってききました。しかし、今取り組んでいる後藤蔵物総合調査は、今までとは別次元の業務です。

担当別に単に建物を調べるのではなく、桐生というまちの歴史を背景として、両代とともに変化を上げてきた状況を感じとり、それらを表現する力が必要となりました。

個人プレーではなく、チームによって力を合わせなければ乗り越えることのできない大きな仕事。各々に異なる取組姿勢や考え方に不安を抱いたこともありましたが、調査を進めていく

Member

歴史的な建物が大好きな仲間たち

桐生多恵子(建築士)

歴史的な建物の調査のためなら寝いっても車にのる。当分のセンサースタッフ。



池田和夫(建築士)

多岐にわたる活動でも大塚本会会友であり、熱心な活動家。



宮崎真作(大工職)

歴史人情に厚く、由緒が長い大工職の集まり。大工職の集まり。大工職の集まり。



代表 加藤浩一(建築士)

代表 加藤浩一(建築士)



久保田真子(建築士)

多岐にわたる活動でも大塚本会会友であり、熱心な活動家。



宮崎真作(大工職)

歴史人情に厚く、由緒が長い大工職の集まり。大工職の集まり。大工職の集まり。



桐生美穂(建築士)

比佐市職員。後援プロジェクトから参加。加藤浩一の活動をサポートする友人。



1/2/3/4
5/6

1. 建物の概要
2. 建物の調査
3. 建物の写真
4. 建物の調査報告書
5. 建物の調査報告書
6. アコギリ屋敷工場

D分科会プログラム

■テーマ

「特定非営利活動法人日本バリアフリーコーディネーター協会」の活動について

■分科会の趣旨

世の中にはいろいろなバリアフリーがあふれていて、何をどう考えたら良いのかわからなくなっている人もいます。

建築の仕事をしていて、どのように取りかかったら良いのか、途方に暮れることが多いと思います。

そのような中で、「特定非営利活動法人日本バリアフリーコーディネーター協会」という団体があり、バリアフリーについての活動をしているという話を聞きました。いろいろな団体が活動をしていると思いますが、個々の詳しい活動を知る機会はなかなかありません。

一団体ではありますが、活動内容を知り、バリアフリーについての一つの入り口になればと思います。

■司会 長瀬 八州余（岐阜県建築士会） アシスタント 酒井 朋子（富山県建築士会）

■コメンテーター 桂川 麻里（岐阜県建築士会） バリアフリーコーディネーター

特定非営利活動法人日本バリアフリーコーディネーター協会「以下「BFCD協会」と表記）の活動は障害を持っている方からの直接のお話を聞いたり、他県の建築士会に所属している方たちや建築士以外でバリアフリー・ユニバーサルデザインに携わっている方たちと情報交換を行っています。BFCD協会の活動の一環である、利用者自らが利用可否を判断できるバリアフリー情報を提供している「IKKEL(イッケル)」に掲載するために旅館・ホテルなど現地に赴き360度カメラにて撮影をし、時にはアドバイスなども行っています。これらの内容に興味を持って頂けた建築士と一緒に活動していきたいです。また、各地で行っているバリアフリー・ユニバーサルデザインに関して意見交換をしたいと思います。

■分科会の進め方

1. 進行説明（10分） 9：00～9：10
2. 第一部（50分） 9：10～10：00
BFCD協会の立上げから活動報告
 - ①BFCD協会とは
 - ②BFCD協会の活動
 - ③IKKELについて
3. 第二部（40分） 10：00～10：40
意見交換（質問もここで受付ます）
 - ①バリアフリーコーディネーター協会について
 - ②IKKELについて
 - ③各地のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて
4. まとめ（10分） 10：40～10：50

■NPO法人日本バリアフリーコーディネーター協会

令和6年2月に設立した協会で、医療・福祉機関、大学、公設試験研修期間と連携し、生活空間や福祉用具などをシュミレーションして、誰もが安心して暮らせるまちづくり・住まいづくりを総合的に研究し、バリアフリーを通じて社会の健全な発展に貢献する「バリアフリーコーディネーター(以下、BFCD)と表記する」を要請し、活動の場を提供することを目的としています。

また、BFCDの相互親睦を深め、情報交換や研修の場を提供し、職能の向上を図り、品性を磨き、他分野と協力して社会に貢献することを目的として活動しています。

■バリアフリーコーディネーター

建築士を対象とした認定制度です。認定講習を修了することでバリアフリー建築について一定基準の知識を習得している建築士であると、対外的に分かりやすく発信することができます。

認定取得後は定期的な講習会や認定更新講習会(更新3年)を実施し、バリアフリー建築における知識水準の発展・維持を図ります。

令和8年5月31日現在「バリアフリーコーディネーター」として活動をしている人は36名で、そのうち33名が埼玉・東京・岐阜・静岡・愛知・滋賀・京都・大阪・和歌山・島根・熊本・沖縄の建築士会員に所属しています。

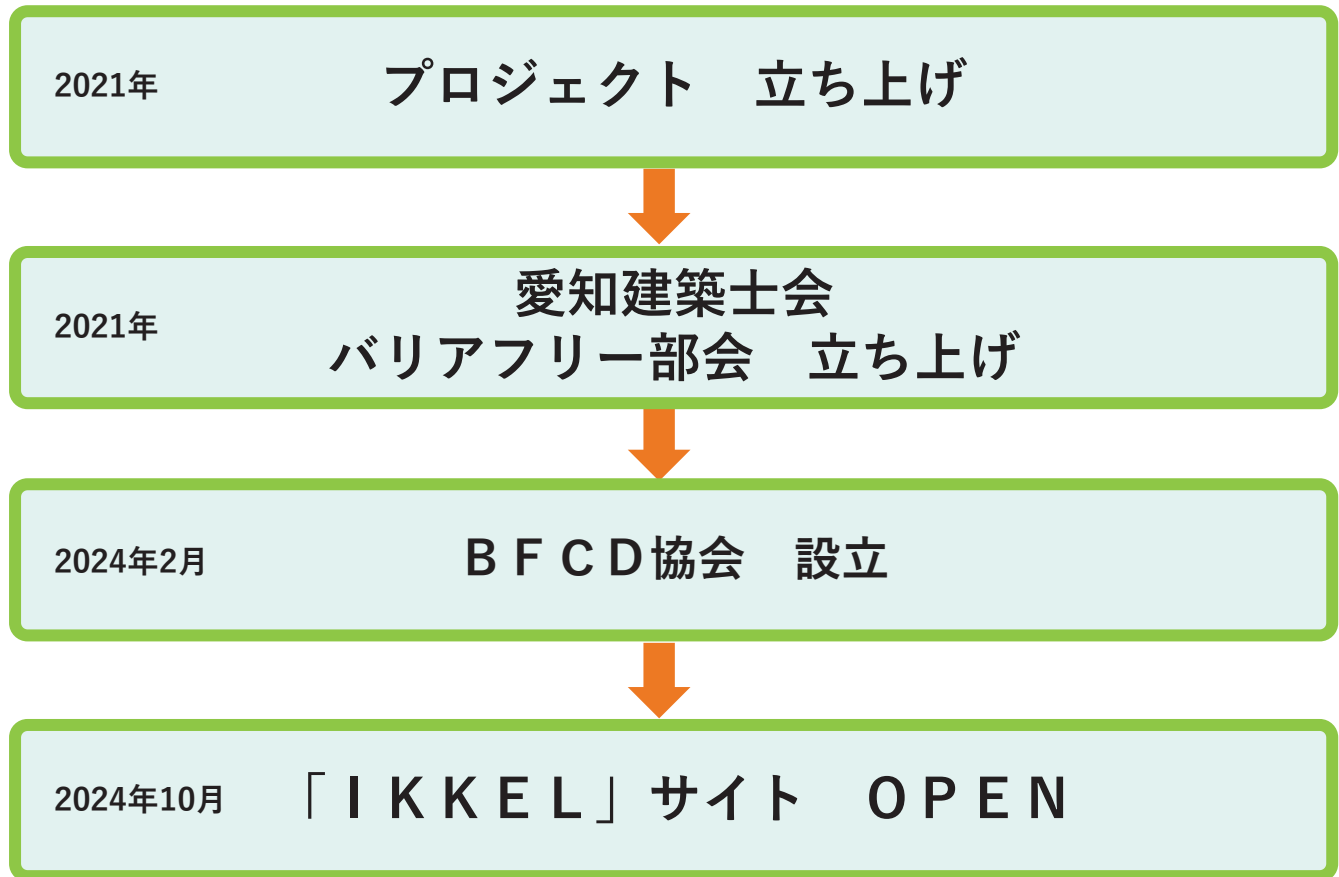
■バリアフリーな宿泊施設の情報サイト「IKKEL」

プロジェクトがはじまったのは、2021年、それが形になりIKKELがOPENしたのが、2024年10月です。各宿泊施設のバリアフリー情報を詳細な写真や3D映像と共に提供し、「自分で確認できる」ことを大切にしています。段差や通路、トイレや浴室のサイズ、補助器具やサービスを調べて、「実際に自分や家族が快適に泊まれるか」を判断できます。IKKELは、バリアフリーを求める方々の旅をもっと自由で楽しいものに変えていきます。

■全国バリアフリー情報公開プロジェクト「IKKEL」の体系図



■これまでの流れ



★プロジェクトの理念★

発信者任せの情報ではなく施設の**利用者自身が利用の可否を判断**できるバリアフリー情報を提供することで、障害者、高齢者の外出の機会を増やし、生活の質の向上の手助けを行う。

★プロジェクトの必要性★

- ☞ 全国を**網羅**したバリアフリー情報がない
- ☞ 情報の表記**基準**がない
- ☞ **利用可能**なバリアフリー施設が**どこ**にあるか分からない
- ☞ バリアフリーの**情報量が多い**にも関わらず、**必要な**バリアフリー情報が**得られない**
- ☞ バリアフリー対応に**苦慮している施設**がある
- ☞ **情報が更新されず**、使えない情報も多い
- ☞ バリアフリーを整えたくても**依頼先**がわからない。

★プロジェクトの目的★

- ☞ バリアフリー情報を**必要な人**に届ける
- ☞ バリアフリー情報の**比較検討**を可能にする
- ☞ 利用者と施設の情報の**齟齬をなくす**
- ☞ 情報提供者と収集者**省力化**を図る
- ☞ **いつでもどこからでも**情報が閲覧できる環境を整える

★目的達成のための方針と手段★

- ☞ 宿泊施設の調査、掲載を先行実施 後に他カテゴリーへ展開
- ☞ 身体障害者の方向向けの情報中心に先行掲載 後に障害対象
- ☞ 利用者と施設の情報の**齟齬をなくす**
- ☞ 情報提供者と収集者**省力化**を図る
- ☞ **いつでもどこからでも**情報が閲覧できる環境を整える

■ バリアフリーコーディネーター認定制度

「バリアフリー建築を手掛けられる建築士」としての指定講習基準を決め、「バリアフリーコーディネーター」としての認定制度です。お施主様にとっては、一定水準以上の見識を備えた建築士に安心して依頼ができ、建築士にとってはバリアフリー建築に精通していることを対外的に発信できる、双方よしの制度です。

★ 第1回 バリアフリーアドバイザー講習会 ★ 令和5年9月5日・22日

1日目

- ・バリアフリーアドバイザー制度について
- ・住環境整備の基本的な考え方
- ・住宅の省エネ対策と耐震化
- ・障害の特性と動作能力／福祉用具と制度
- ・バリアフリー工事事例／福祉用具体験

2日目

- ・住宅改修の共通基本技術
- ・設計事例について
- ・ワークショップ
- ・終了テスト

★ 第2回 バリアフリーコーディネーター認定講習会 ★ 令和6年6月21日・22日

★ 第3回 バリアフリーコーディネーター認定講習会 ★ 令和7年6月27日・28日

1日目

- ・バリアフリーの現状と未来
- ・バリアフリーコーディネーター制度と、
I K K E L プロジェクト調査協力について
- ・住環境整備の基本的な考え方
- ・福祉用具講習・体験
- ・建物の省エネ対策と耐震

2日目

- ・障害の特性と動作能力
- ・福祉用具と制度
- ・住宅改修の共通基本技術
- ・設計事例とワークショップ
- ・終了テスト

◆ B F C D 協会 会員 ◆

A 会員／B 会員／C 会員

◆ B F C D 事業 ◆

・新築、改修、まちづくりに関する ご相談

バリアフリーの建築の場合、一般的な新築やリフォームとは違う視点で考えなければいけないことがたくさんあるため、一般の方からの相談に応じます。

・ B F C D の派遣

B F C D が訪問し、お身体の状態や住まいに応じた適切なアドバイスをします。相談があった場合、各地域の建築士が派遣されます。

各建築士会の H P にもバナーの掲載を行えます。



・講習会、後援会

知見を深め常にアップデートしていくためのコーディネーター講習会も実施し、継続的に学び、高い水準を発展・維持しています。全国のバリアフリー建築の事例や最新のトレンドなども学べます。

**建築の未来は
バリアフリーコーディネーターが創る**
～認定講座 受講者募集中～

バリアフリーに精通した建築士として、キャリアアップと
新たなビジネスチャンスを広げませんか？

受講をお勧めする 3 つの理由

- 専門知識を習得し、スキルアップ**
建築士、建築・設計を通じて、バリアフリー知識を深められる。
- 新しい仕事の機会を創出**
バリアフリー建築を得意とした建築士として、地域からの依頼を受ける機会が増える。
- 広がる人脈と情報**
関連職種もあり、バリアフリー建築を必要としている人と繋がりを持つ。

**■「バリアフリーコーディネーター」は
建築士を対象とした認定制度です**

**■コーディネーターが自ら建設へ訪問、
建築士とバリアフリーの知識と視点でアドバイス**

**特定非営利活動法人
日本バリアフリーコーディネーター協会**
相談・研修機関・支援・公益は福祉の増進と貢献し、誰もが安心して生活できる
まちづくりを総合的に推進することを目的としています。

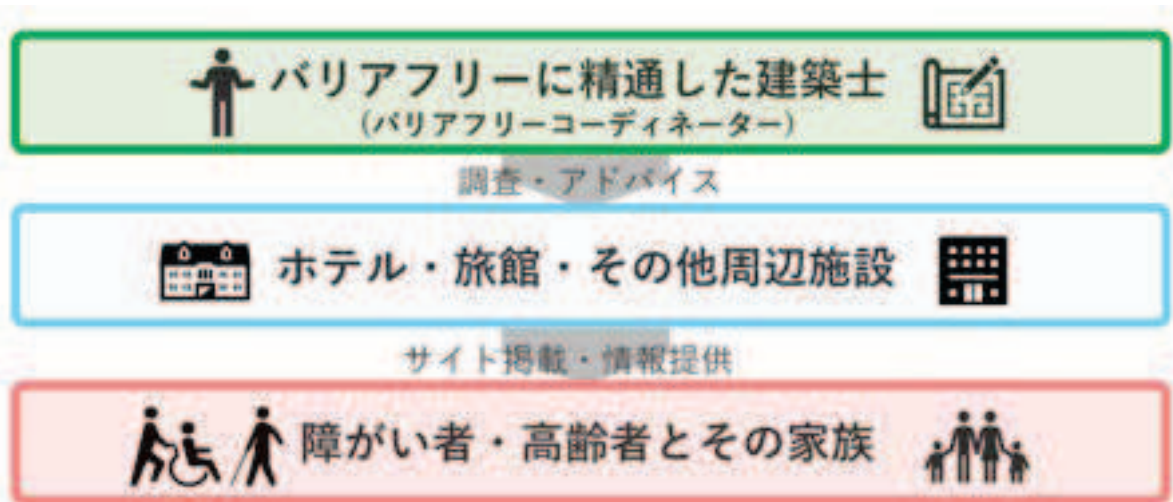
ご質問等
お気軽に！

contact@barrierfree-cc.net | barrierfree-cc.org

■ IKKE L 「泊まれるかどうか」よりも「泊まりたい」と思える宿を

障害をお持ちの方や高齢者の方を積極的に受け入れる意思を持った宿泊施設の情報を掲載するポータルサイト

★ 調査から利用までの主な流れ ★



★ 調査・アドバイス ★

① 対面での聞き取り

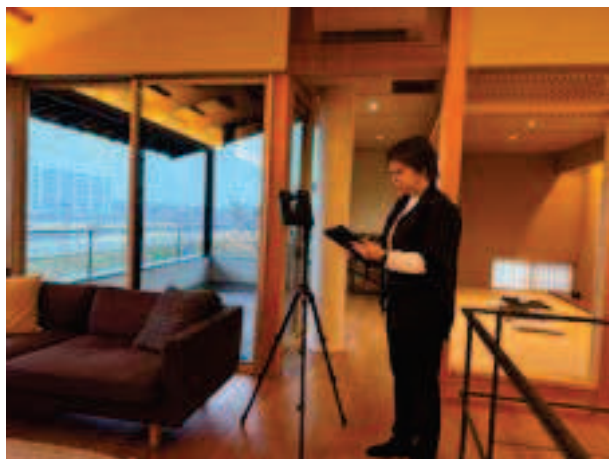
- ★アンケートは事前にとりますが、現地で直接担当者様に再度アンケートをとります
- ・宿泊施設側のバリアフリーに対する取組の方向性などを把握
- ・宿泊施設側のバリアフリーに関する認識や理解度などを判断
- ・エレベーター、大浴場、車椅子用の駐車場等を把握

② 現地での撮影

- ★撮影する箇所をすべて確認してから撮影に入る
- ・宿泊室は360度カメラであるMatter Port（マターポート）を用いて撮影
- ・主要な部分はスケールにて実測する
- ・その他のエレベーター、大浴場等は必要なら写真を撮影

③ 現地でのアドバイス

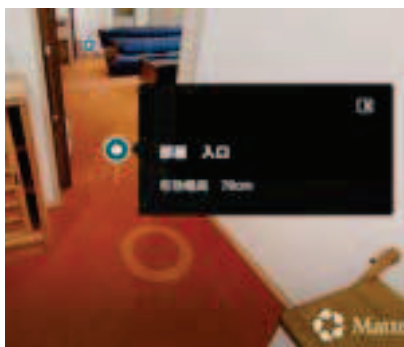
- ★よく聞かれる内容
- ・すぐには改修できない場合の措置の方法
- ・宿泊室内で直した方が良い備品の位置はあるかないか
ツインの場合のベッドの置き方
- ・一般の方が宿泊する時と車椅子の方が宿泊する時とどちらを基準に備品を置いたらよいか
- ・次回改修する時に気を付けた方がよいこと など



★ サイト掲載 ★

自分でも3Dウォークスルー内で計測可能だが、現地で実測した主な寸法は画像内に落とし込み、ホテル利用者が特に知りたい情報はすぐ確認できるようになっている

ウォークスルーだけでなく、平面形状でも確認できる



★ 愛知県サービス大賞 知事賞 受賞 ★



■ 今後に向けて

★ コメンテーター 桂川麻里 ★

全国でバリアフリーやユニバーサルデザインに関して取り組んでいる建築士会会員の方は大勢みえますが、障害当事者や高齢者の方達はどこに相談して良いか、窓口が分からない状態です。

バリアフリーコーディネーターの存在が多くの方に知って頂けるように、また、各地域のみで活動しているバリアフリーに精通した建築士の方と一緒に活動できたらと思います。

★ プロジェクト立ち上げ者 阿部一雄 ★

私が車椅子を利用する建築士として生活し、仕事を続ける中で、バリアフリーやユニバーサルデザインに関して次のような課題を感じてきました。

- ① BF/UDの知識や経験を持つ建築士の専門性を社会に伝える仕組みがなかったこと
- ② BF/UDを必要とする人と、支援できる建築士や専門家をつなぐ仕組みがなかったこと
- ③ BF/UDの考え方を建築やまちづくりに反映し、誰もが暮らしやすい社会につなげていくことは、建築士の大切な役割であると考えたこと

こうした課題の解決と役割の実現を目指し、バリアフリーコーディネーターの養成と全国的なネットワークづくりに取り組んでいます。この活動に共感いただけましたら、ぜひバリアフリーコーディネーター（建築士）として私たちと一緒に活動していただければ幸いです。

E分科会プログラム

■テーマ 鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり

■分科会の趣旨

今、全国のＪＲで無人駅は約4000件あり、利用者数が極端に少ない駅の廃止・統廃合が進行しています。経営を考えると仕方がない事なのかもしれませんが、駅舎は人々の暮らしの記憶が凝縮されているもので、地域の顔・原風景となっている駅舎も数多く存在します。

和歌山市にあるＪＲ紀伊中ノ島駅もその一つで、昭和10年築のモダンな木造駅舎と古レールを使用したホーム屋根が特徴の歴史的建造物です。駅舎は老朽化を理由に解体撤去される予定でしたが、地元住民や駅舎の保存・活用を考える仲間で結成された『紀伊中ノ島倶楽部』の保存運動により駅舎は残る事となりました。その後、和歌山市・地元自治会・紀伊中ノ島倶楽部の三者で保存及び活用に関する覚書も締結され、少しずつ輪を広げながら持続可能な利活用方法を模索中です。

分科会では一連の活動についてコメンテーターに報告頂くと共に、皆様から当分科会宛てに送って頂きました残したい魅力ある駅舎と利活用情報を共有し、ざっくばらんな意見交換をしたいと思っています。 ※駅舎情報をご投稿頂きました皆様、ありがとうございました。

■司会 畠中 みか（和歌山県建築士会） アシスタント 森 智佳代（和歌山県建築士会）
中浦 和香（和歌山県建築士会）

■コメンテーター 笠木 和子（和歌山県建築士会、紀伊中ノ島倶楽部代表）

「中ノ島倶楽部」は建築士だけでなく、地域の方やお店の店主、まちづくり会社の方や、デザイナーなど、この駅が好きな仲間が集まり駅舎の未来を考えています。一緒に活動したい、応援したいという方も募集中です。

今回の感想なども含め、お気軽にご連絡ください。

紀伊中ノ島倶楽部 Mail：kiinaka1935@gmail.com



紀伊中ノ島倶楽部
Instagram

■分科会の進め方

- | | | | | |
|-------------------|-------|-------|---|-------|
| 1. 進行説明 | (5分) | 9:00 | ～ | 9:05 |
| 2. コメンテーターによる活動報告 | (50分) | 9:05 | ～ | 9:55 |
| 3. 質疑応答 | (10分) | 9:55 | ～ | 10:05 |
| 4. 全国からの駅舎情報の発表 | (30分) | 10:05 | ～ | 10:35 |
| 5. 意見交換・まとめ | (25分) | 10:35 | ～ | 11:00 |

「JR 紀伊中ノ島駅舎」の保存活用

笠木和子 和歌山県建築士会、紀伊中ノ島倶楽部代表

駅舎の存在と場の記憶

どの街にもその地域の象徴となるような場所があるのだと思います。新しい建築は新たな街の風景をつくりますが、古く変わらない建築が持つ歴史に裏打ちされた懐かしさや安心感というものは新たに作る事はできません。和歌山市には人々の記憶が継承された建物がまだ多く残っており、こんな素敵な駅舎も残っているのです。

私達は、新旧和歌山駅の一駅隣に位置しその変遷を見届けてきた「紀伊中ノ島駅」の保存活用について考え活動を行っています。

和歌山市は戦前から「南海の工都」と呼ばれ、繊維産業や木工業が盛んで、それまでになかった鉄道網も目まぐるしい変遷を遂げました。和歌山市で初の鉄道となった紀和鉄道は奈良から入り和歌山駅（現. 紀和駅）を開業（明治 31 年）。その後南海鉄道も紀の川を渡り難波一和歌山市駅を開業（明治 36 年）、そして二社は乗り入れを行い市中心部の中核路線を形成します。更に阪和電気鉄道が天王寺ー東和歌山駅（現. 和歌山駅）を開業すると（昭和 5 年）立体交差する地点に「阪和中之島駅」を開業（昭和 7 年）。その後、双方の乗換駅として

「紀伊中ノ島駅」が開業しました（昭和 10 年）。昭和 43 年に和歌山駅を紀和駅、東和歌山駅を和歌山駅へと改称し路線変更による一部区間が廃線となったことから「紀伊中ノ島駅」は阪和線単独の中間駅となり乗り換え機能を失い、無人駅として現在に至ります。

保存活動について

ある日、電車に乗ろうと駅へ行くと「ホーム屋根撤去のお知らせ」と書かれた張り紙がありました。それがこの活動の出発点です。JR はコスト削減のため利用者の少ない駅のコンパクト化を進めており、この駅もその対象となっていたのです。私は 2022 年へリテージマネージャー講習でこの駅を研究した直後で、このホーム上屋が産業遺産に認定されている事を知っていました。1902 年製を最古とした官営八幡製鉄所創業当初のレールが比類ない規模で使用されており、波のような形をした見事なレール構造の上屋でした。しかし上屋は一部を除き撤去され、今後は駅舎も解体と知り非常に惜しいと思いました。駅は地域にとって公共性が高い場所です。長年放置されてきたこの魅力的な無人駅舎を観光や交流の



「紀伊中ノ島駅」の廃線となったホーム（上は阪和線）

（和歌山市の昭和」発行：樹林舎、写真 和田康之氏）



駅舎と廃線路跡地の活用案



在りし日の阪和線ホーム上屋

資源として役立てることができないかと活用案を考え JR や市に提案をしましたが進展しませんでした。そこで、地元自治会を巻き込み地域住民にアンケート調査を始めました。回答は県外含む 700 を超え、9 割以上の方の残して欲しいという声と共に、その理由や思い出話が寄せられました。マスコミ報道等もあり、後の市長訪問で駅舎保存に前向きな方向へと進みだしました。

「紀伊中ノ島駅舎」の継承すべき価値

今年で 92 年目の紀伊中ノ島駅舎は、空襲の戦火も逃れて当時のままの姿でその歴史を今に伝えています。市の発展に寄与してきた鉄道遺産として、戦前から今日まで往来と旅立ちの記憶を刻み続けてきた地域の顔であり誇りとして、時代背景や街の変遷を伝える貴重な歴史的建造物として、文化、観光、教育など多方面から見ても未来へ継承すべき資産です。市中心部で唯一現存する駅舎であるため、当時の和歌山駅周辺地域の産業や、人々の暮らしと記憶にリンクできるシンボリックな建築としても価値があるのではないかと思います。

駅舎の未来と管理運営

今年に入り和歌山市、地元連合自治会、紀伊中ノ島倶楽部の三者で「紀伊中ノ島駅舎の保存及び活用に関する覚書」を交わしました。来年度、JR から和歌山市へ駅舎が譲渡され、駅舎の活用や管理運営は私達が担う予定なのですが、条件はなかなか厳しいものです。今は、県内や他府県の無人駅活用事例の視察も重ねながら「紀伊中ノ島駅舎」再生の道を皆で模索しています。

まちづくりの観点からも駅はコンパクトシティのポイントになる場所です。紀伊中ノ島駅周辺は、若い世帯の増加も見られる利便性に優れたエリアのため、駅舎活用が周辺地域の発展を促進する原動力になる可能性があると思います。

戦前から地域の象徴として親しまれてきた歴史的な駅舎の再生。この可能性を秘めた場所を地域のアイデンティティとして魅力ある場所へ。持続可能な事業構想を計画中です。

お掃除イベントの様子



和歌山大学の学生達（アントレプレナーシップ）も参加

F分科会プログラム

■テーマ 災害に備えて 建築士が今、繋がる

■分科会の趣旨

自然災害が各地で多発する中、建築士に求められる役割も大きくなっています。また激甚化する災害において建築士単独では対応できないことが数々の被災地でわかってきています。この分科会では、2016年熊本地震をきっかけに繋がった九州の建築士による【建築プロンティアネット】の活動を満原早苗氏よりお話しいただきます。また2024年能登半島地震を機に立ち上がった石川県の建築士による【建築プロンティアネット北陸】の活動と能登半島等の現状を山本周氏よりお話しいただきます。建築士が横につながり情報共有すること、また他業種他団体ともつながり関わっていく重要性などを事例とともに共有し、災害に対して私たちには何ができるのかを分科会参加者と模索し考え、行動変容に繋げる機会としていきます。

■司 会 渡邊 睦（岡山県建築士会） アシスタント 中山裕里香（岡山県建築士会）

■コメンテーター 満原 早苗 （佐賀県建築士会／建築プロンティアネット）

1980 佐賀県生まれ
2003 九州産業大学建築学科卒業
2003 佐賀県内工業高校建築科講師
2006 特定非営利活動法人循環型たてもの研究塾
2010 一級建築士事務所スムコト設計 設立
2016 建築プロンティアネット 活動開始

■コメンテーター 山本 周（建築プロンティアネット北陸）
（オンライン参加）

1985 新潟県生まれ
2009 金沢美術工芸大学大学院 修了
2009 長谷川豪建築設計事務所
2015 山本周建築設計事務所 設立
2024 建築プロンティアネット北陸 活動開始

■分科会の進め方

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 司会挨拶、コメンテーター紹介、趣旨説明 | (10分) 9:00～ 9:10 |
| 2. コメンテーターによる活動報告 | (50分) 9:10～10:00 |
| 3. (休憩) 意見交換 | (30分) 10:00～10:30 |
| 4. アクション作成 | (10分) 10:30～10:40 |
| 5. まとめ・写真撮影 | (20分) 10:40～11:00 |

災害に備えて建築士が今、繋がる

一般社団法人佐賀県建築士会 女性委員
建築プロンティアネット（九州・北陸）
満原 早苗

■建築士として、災害へ初めて向き合う ～2016年熊本地震より

2016年4月14日から発生した熊本地震。佐賀県からは4月25日から応急危険度判定士の派遣がなされ、私自身も判定士として益城町や大津町へ向かいました。想像を超えた被害を目の当たりにして、普段の暮らしが一変したさまにショックを受けながらも「住民の安全を守るために」と、必死に判定作業を行いました。

何度かの派遣を終えてからは、TVやネットで得る現地の情報に、私は少しでも役に立ったかなという気持ちと、何かのモヤモヤを抱える日々でしたが、建築士会九州ブロックの仲間と再度熊本に入った折、熊本市北区龍田で自主的な活動を行う福岡県の女性建築士のグループと会いました。その地域は県からの応急危険度判定がなされない地区でしたが、危険な状態の建物や敷地があることに変わりなく、それに対して危険な旨の表示を行ったり、地域の今後を考える会を立ち上げたりするなどの活動がすでに始められていました。

このような有志の繋がりでも何かできることがあると感じた場面でした。

■はじまり ～西原村の相談から九州ブロックの建築士との活動へ



被災後に支援活動を行う団体に属する知人から「被災した建物の相談に乗ってほしい」という連絡を受けまずは単独で西原村に向かうと、「応急危険度判定の用紙に書かれている意味がわからない」「赤い紙を貼られているため、もう建物に入れない」などという住民の方に会いました。そこで、何をもって危険と判断されたのか、コメントにどのようなことが書かれているかなど、判定について翻訳し説明することからスタートしました。そこから、「被災した建物の状況を見てほしい。」「このまま住んでいても大丈夫か。」「修理を待つ間に何か自分でできることがあれば教えてほしい。」・・・といった相談が寄せられるようになりました。

A photograph showing a man in a straw hat and a woman in a dark jacket engaged in conversation outdoors. In the background, a white van is parked on a paved area, possibly a parking lot or a street. The scene is brightly lit, suggesting daylight.

現地調査の内容をまとめたカルテ（議事録）

[illegible]

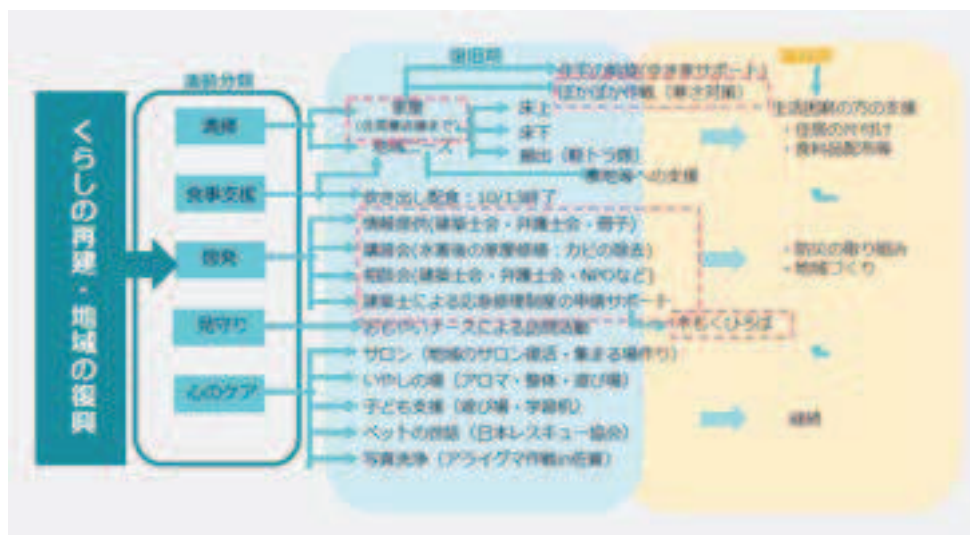
- 被災建物相談・・・応急危険度判定の翻訳、危険箇所の確認と応急処置の方法の提案
- 木もくひろば相談会・・・仮設住宅やイベントでの相談会開催
- 仮設住宅の住環境改善・・・入口段差の改善や棚づくりなど
- 記憶の中の住まいアルバム・・・宮城県建築士会女性部の活動をヒントに



■佐賀豪雨災害での経験から各地の水害対応へ

2019年8月29日、佐賀県内で豪雨災害が発生。地元及び周辺地域の有志が集まり、生活圏内で発生した災害に対し自分たちで何ができるかを話し合い、9月7日に民間の「おもやいボランティアセンター」を開始しました。（“おもやい”は、共有する、分け合うなどの意）

ここでは暮らしの再建、地域の復興のために、清掃片付けだけでなく土業や福祉の専門家、看護師や学生、地域の婦人部などさまざまな分野からの支援者が集結し、食事支援、生活物資の提供、寒さ対策、サロン、子供の遊び場、写真洗浄、技術講習会などを行いました。



おもやいボランティアセンターでの活動

建築ボランティアネットは、建物の被災状況のヒアリング、住民や災害ボランティアへのアドバイス、応急修理制度の周知活動と申請サポート、復旧方法の提案などを行いながら、状況に応じ必要な場合は他の支援団体に繋がります。反対に、他団体からも建築への困りごとを抱える住民の相談が我々に引き継がれるなど、支援者同士相互に情報を共有しながら復興を目指す体制をとっていきました。

水害対応の経験がなかった私たちも、当初は岡山県建築士会や各種支援団体の資料を参考にし、さらにここで多様な支援団体と出会い学びながら知見を広げることができました。そしてその後毎年のように発生する各地で水害の際には、建築士会や有志メンバーと連携して被災建物復旧へのポイントをまとめたり、初動に関するレクチャーをオンラインで行ったりして佐賀の活動で得た情報をできる限り共有しました。



【水害対応での各県建築士会等との連携】

- 佐賀県建築士会…危機管理対策部会と「建物浸水被害復旧のポイント」の作成
- 熊本県建築士会…「建物浸水被害復旧のポイント」熊本県版の作成
- 現地での被災建物相談への同行 等
- 福岡建築士会…被災建物復旧への初動についてのオンラインレクチャー 等
- 大分建築士会…現地での相談活動、現地調査に参加 等

■能登半島地震 ～建築プロンティアネット北陸の立ち上げ

能登半島地震が発生した後、建築プロンティアネットの佐賀メンバーと2人で[建築討論]というウェブマガジンのインタビューを受けました。これまでの災害に対して活動を行ってきた建築士に話を聞く、というものだったのですが、そのインタビュアーであった建築士も、「できることをしたいけど建築士として何ができるのか」と熊本地震後の私と同じようなモヤモヤを抱えていました。そこで「まずは現地に行ってみてはどうか」と声をかけたことから3人の建築士が立ち上がり、そこから北陸エリアのネットワークが動き出し、2024年2月に“建築プロンティアネット北陸”の誕生となりました。



現地相談を基本にした活動から、応急措置や修復方法の提案、罹災証明の判定、支援制度の説明など徐々に変わるフェーズに対応し、その都度作成された資料や動画などは共有し公開されています。



被災者が受けられる支援金についての資料



現地調査のためのレクチャー動画

『建築プロンティアネット』という名前は、[プロ（建築士）の力を活かしたボランティア活動』という意味の言葉で、建築士の力を災害からの復興に役立てていくという想いを込めています。

災害支援は、日常と違う作業や自分で背負う使命感に追われ、力んでしまいがちです。そうして力尽きてしまい長続きできず、結果疲れ果てて終わり…ということも。自分の体力とメンタルを保つためにも、自身の力を過信せずに仲間と協力しあいながら細くとも長く続けることが大切だと思います。それが被災地の力にも繋がります。

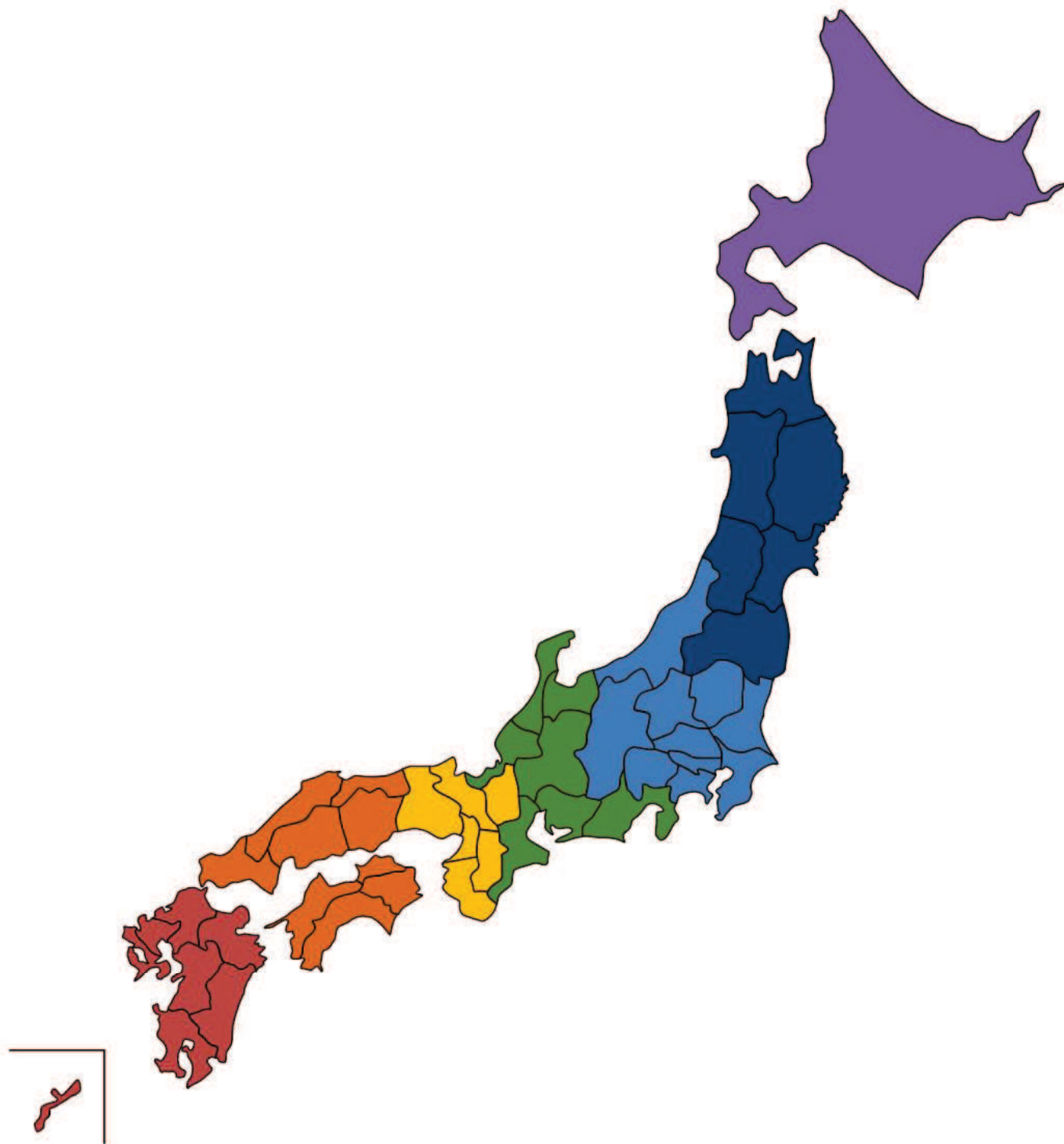
建築プロンティアネットのロゴ（右）は、建物の下で人々の暮らしがいつまでも安全に続くようにとの願いから生まれました。

自然災害は無くなりませんが、そこに暮らす人々の不安がひとつでも減らせるように、建築士の目と手をつなぎ知見を共有しながら現地に向かう足を増やせたらと思います。



Memo

8 女性委員会（部会）活動報告・アンケート集計



北海道

北海道建築士会女性委員会の活動のひとつに「女性建築士の集い」があります。1987年から毎年、道内で開催地を変えながら続けられており、開催回数が30回を重ねる歴史ある活動です。2025年は、旭川にある美しい庭園の「上野ファーム」を訪れ、町の自然資源が活かされた「当麻町役場庁舎」を見学しました。町長自ら建設に至るまでの経緯を解説いただくなど、組織のネットワークだからこそ実現した特別な機会となりました。

企画と運営は、その地域に暮らす女性委員が主導する仕組みですが、そのプロセスが活動を継続させる原動力となっているのではと思います。

全道各地からいつも20～30名ほどが集まる、年に一度の人気の企画です。毎年この集いを楽しみに参加される会員も多く、定例のプラットフォームとして定着しています。

青 森

令和7年7月、全県女やまがた大会のワンバイワン発表を経験し、委員会活動を奮起するきっかけとなりました。10月、県内女性会員に向けた交流会を開催。鉄骨に触れたワークショップ、鉄骨工場・シードル工場・名勝盛美園の見学を行いました。会員同士の交流を図れた他、新しい物に触れて会員自身が満足した機会となり、この活動を続けていくことで、女性会員の増員にも繋がることに期待します。2月には、県立八戸工業高等学校建築科へ向けた出前授業を開催。4人の女性委員が出向き、建築士に興味を持ってもらいたいという内容で、女性会員の経歴などプロフィールを話したり、建築業界の職業図鑑や資格取得への道のりなどを授業しました。建築士のイメージに対し、あまりハードルを上げない事に意識した内容で準備を進めました。この授業で生徒からアンケートを取り、令和8年度はこのアンケート結果を解析し、次の活動に繋げていきたいと思っています。

岩 手

【令和7年度活動報告】

5月：講演会（会場：旧達古袋小学校）及び見学会（一ノ関）
NPO法人一関のなかなか遺産を考える会事務局長 阿部えみ子氏よりご講演頂き、萩荘邸、石と賢治のミュージアム、国登録有形文化財旧東北砕石工場を見学しました。

8月：青年委員会と共に「ダンボールハウス」WSを、盛岡市内住吉神社で開催。

11月：ドキュメンタリー映画「人生フルーツ」いわて上映会実行委員会を発足。

12月：衣川中学校から依頼受け出前授業「パズルで住まいを考えよう」講師派遣。

【令和8年度活動報告・予定】

5月：紫波町「にわとり堂」（旧紫波郡役場庁舎）にて講演会・見学会
（株）くらしすた不動産 星洋治様、夕方デザイン有原寿典様よりご講演頂き「にわとり堂」「ひづめゆ」を見学いたしました。

8月：ドキュメンタリー映画「人生フルーツ」上映会開催いたします。その他、専門学校等で「ダンボールハウス」WSを青年委員会と共催予定です。

宮 城

『語ろう学ぼう木の建築講座（継続）』（WEB研修会）年4回の開催。

『お泊り研修会』FSCプロジェクト認証のみやぎ登米農業協同組合本店なかだ支店様見学、また納材を行った登米森林組合様のプレカット工場見学と講習など

『記憶の中の住まい 荒浜ツアー』国境なき劇団との共催。

『建築と私』東日本大震災から15年 復興まちづくりから見えてきたこと
ー建築家は「都市の文化」の最前線にー 阿部重憲氏による講演。

秋 田

- ・5月 第1回学習会「災害に備えるための二つのお話 あなたの家の災害環境・噴火サバイバルガイド」と題し、講師に秋田大学名誉教授・火山学者の先生をお招きして、地形に記録された過去の災害を知り将来起こり得る災害を読み解くこと、また、火山とその噴火から命を守るために必要なことについて学ぶ。
- ・7月 全建女やまがた大会に隣県から応援もかねて会員12名・学生3名参加。
- ・8月 地域貢献活動「親子体験学習・気持ちのいい家つくろう」由利地区で開催。今回で18回目、家族8組・19名の親子参加。「子どもの作りたいイメージをどう形にするか」想像力をくすぐりながらアドバイス。活動工程を地元ケーブルTVにて取材・放映。
- ・2月 第3回学習会「つまみ細工製作」に挑戦。ストラップとブローチ作成。
- ・3月 女性委員会日より発行。
- ・R8年度女性委員会発足40周年・記念事業開催に向け準備中

山 形

山形県「令和7年度活動報告」

1. やまがた大会（第34回全国女性建築士連絡協議会）の開催
全国から約300名の参加を頂いた。基調講演では「木造建築の可能性」をテーマに専門家を招き、最新の木造技術や地域材活用の事例が紹介された。大懇親会では県内の食文化や伝統を紹介し、山形らしいおもてなしを実現することができた。
2. 研修・見学会の充実
 - ・建築女子フォーラム（第7回）米沢市にて開催。（東北ブロック会見学会同時開催）
3. 地域活動の継続
 - ・かみのやま草屋根プロジェクト
茅刈り体験や文化財を核とした歴史まちづくりへの参加。
 - ・緑のカーテン写真コンテスト（天童支部）
地域の環境活動として継続開催。
4. 広報・情報発信
 - ・女性委員会会報「あれこれ」発行（年数回）
活動報告・見学会レポート・委員長挨拶などを掲載。

福 島

令和7年度活動報告

【第36回 女性建築士のつどい】

R7年11月9日（日）ランチ会（会員限定）～PM：講演会＋茶話会（一般参加募集）WEB配信無

講演会は車いすyoutuberの渋谷真子氏に「自分らしく生きるために」と題してご講演頂き、車いすの方や学生を含め多くの一般参加者が集まった。

会のPRを兼ねて広く参加者を募集したことで、青年委員のみならず、会員外の建築士や福祉関係の学生、会員の友人知人など多様な方々にお集まりいただき、つどいの新たな可能性を発掘した。

また、5回の女性委員会会議をリアル開催した。

令和8年度活動計画

【第37回 女性建築士のつどい】

R8年9月初旬 バーベキュー&施設内建物見学会

人手不足によりこれまで通りの「つどい」開催が崩壊する中で、「負担を減らしつつ楽しめる会にするには？」を模索し、県内のレジャー施設で提供しているバーベキュープランを利用して開催。

その他4回の女性委員会を予定。

茨 城	女性委員会では年13回のセミナーを企画、開催しました。毎年、新年会を兼ねた企画会を行ない内容と担当者を決定しています。令和7年度のセミナーを紹介します。 4月「曳家の魅力を知る」、5月は社寺建築や数寄屋建築を手掛ける棟梁の作業場を訪ねお話を伺った「宮大工のしごと」、境町にて隈研吾氏設計の建物見学会(7棟)「隈研吾建築物を巡る旅」6月「法改正～4号特例・構造について」7月「新2号建築物詳細説明」と「住宅の防犯&サイバーセキュリティ対策」9月「スタンドグラスワークショップ」と「LIXIL bathtope (バストープ)」の話を聞く」10月「もうひとつの選択肢-太陽熱と蓄熱で描く心地よい暮らし」、11月町家を改修し、企画ギャラリーとしてオープンした「町家アートギャラリー」見学会、12月「ニホンミツバチの飼育入門―巣箱作り解説編―」2月「ペットと暮らし―猫編―」3月「古民家の構造の成り立ちパートII」その他、女性委員会単独事業として10月5日に「茨城のうるしを知ろう～奥久慈漆見学と漆塗り体験」開催。地元漆への造詣を深めるべく、生産から塗りまでの勉強会を行ないました。
栃 木	栃木県建築士会女性委員会 令和7年度の女性委員会は、会員相互の交流と研鑽の止揚、地域社会への貢献、および次世代育成を軸に多角的な事業を展開しました。 初夏の意見交換会を皮切りに、8月の「こども建築塾」や10月の「もくもくまつり」へ参画し、子どもたちへ建築や木育の魅力を伝える次世代育成活動に注力しました。また、12月の林業大学校での塗装研修会、2月の日本民藝館や東京ジャーミィを巡る視察研修を通じ、技術と文化の両面から建築への造詣を深めました。さらに、これら多様な活動の成果や知見を広く発信すべく、女性委員会会報誌『モンビュウロ』を発刊いたしました。 期中、定例会や機動的なミーティングを継続したことで、委員間の有機的な連携強化と組織の活性化を着実に具現化した1年となりました。
群 馬	令和7年7月に役員研修としての見学会、10月には女性委員会『集い』を開催し、会員相互の交流と研修を行いました。12月には、平田晃久氏設計の「エアリスベース」を見学し施工者の立場からの視点でのお話を聴きました。1月はプレぐんま大会企画として、民家勉強会第1回、群馬企画展示のためのワークショップの開催、2月に民家勉強会第2回、3月には、建築写真講座を開催しました。特に民家勉強会は一般会員の参加も多く好評でした。令和7年度の活動は、恒例の事業の実施、年が明けてからは、令和8年10月開催の全国大会ぐんま大会の準備を始めました。女性委員会では、群馬企画展示として『絹と群馬の建築』をテーマで、養蚕農家、絹産業での女性の関わりなどをまとめたパネル展を企画しました。養蚕県である群馬と、絹産業を担う女性の存在をご紹介できるよう、まずは、会員が地域の建築、地域の産業を担う女性の役割など、改めて正確な知識を習得することに努めました。
埼 玉	埼玉建築士会女性委員会の活動報告 令和7年11月20日(木) 14:00～18:00、青年委員会との合同企画で東京渋谷区の17か所の「The Tokyo Toilet」Project 巡礼ツアーを開催。(参加者22名) 見学会及び新年座談会として令和8年2月26日(木) 旧前田侯爵家本邸見学会・レストランle Beaucoupにて新年座談会を開催。(参加者19名) 予定として、令和8年度は女性委員会の40周年を迎えるにあたり、11月28日に川口総合文化センター・リリアにて記念講演及び懇親会参加人数100名を計画中。テーマは女性委員会で2年間取組んできた「トイレのあれこれ」について。 一昨年の全建女基調講演で講演された日建設計・畑島楓氏と「The Tokyo Toilet」で設計された設計事務所ゴンドラ・小林純子氏、トイレ設計のスペシャリストによる講演及び御二人の対談の予定。

千葉

【令和7年度活動報告】

- 社会活動として、地域の子ども向け土曜日学校にて、「逃げ地図」出前ワークショップを開催。
- 研修活動として、当会初の女性委員会主催研修親睦旅行にて、大雄山最乗寺・神奈川工科大学KAIT広場等を視察。
- 建築と子ども達小委員会では、親子で遊ぶ積木とキューブパズルを開催。
- 福祉まちづくり小委員会では、国際福祉機器展にて介護・福祉用具の視察。また、高齢者疑似体験キットにて、高齢者の身体状況のリアル体験。
- その他、フェイスブックの更新や「地震いつもの備え」「建築士のお仕事」などの冊子の配布と普及活動

東京

- ・2月7、8日に八ヶ岳南麓のエコハウス「ほくほく」の宿泊体験に委員4名が参加しました。「ほくほく」は築40年の空き家を高気密・高断熱改修した環境住宅です。電気・給湯・暖房など生活に必要なエネルギーを全て太陽光、太陽熱、薪ボイラーにより敷地内で自給する手法を学び、暮らしぶりや空間の快適さを体感しました。
- ・4月26日に武相荘（白洲次郎・正子夫妻の住宅）の見学会を行ない、委員8名が参加しました。ヘリテージマネージャー講座を受講している委員が武相荘の資料を作成しガイドをしました。東京では5月に「東京建築祭」が開催され、一般の方の建築への興味・関心が高まっており、女性委員会としても将来的に、建築士や一般の方向けの見学会を企画していきたいと考えています。
- ・定期委員会を2、3か月に1回の頻度で開催しています。対外的な催しの企画検討や、委員によるミニレクチャーをおこなっています。

神奈川

神奈川県では、今年度も引き続き「ちょこっとプランニング（ちょこプラ）」を開催しています。

中学生の職業体験では、木造のちょこプラを題材にサンスケの使い方や尺貫法を学ぶ講座を実施しました。また、昨年に続き横浜市主催の「よこはま建築ひろば」に参加し、約60名の小学生にちょこプラを体験していただきました。

昨年6月には、青年委員会より「建築士の仕事を保育園児に教えてほしい」という難題な依頼を受け、『三匹の子ブタ』を題材に紙芝居を制作し、脚本を作成してAIでイラストを生成。保育園児にも理解をしてもらい大変好評だったため、委員会内で声優を募って録音し、動画化して「よこはま建築ひろば」で上映したところ、こちらでも好評をいただきました。

YouTubeでも公開しておりますので、ぜひQRコードからご覧ください。

今年3月には、横須賀市の古い市営住宅を官民連携により再生した「月見台住宅」の見学会を開催しました。横須賀市のご説明を伺いながら、長浦港を見下ろす“天空の町”を散策し、地域の歴史と再生の取り組みについて理解を深めました。また、来年開催される「全建女2027かながわ大会」に向けて実行委員会を立ち上げ、現在準備を進めているところです。HPも開設し、情報は随時更新していく予定です。



けんちくしのおしごととYouTube



全建女2027かながわ大会

長野	【1】第17回 信州環境エココンテスト開催のお知らせ 今年度は「おらほの空き家」～利活用のその未来（さき）～をテーマに開催いたしました。 ・一次審査（書類審査）：応募総数 5校 209名（前年比+1校、応募者は約50名増加） ・二次審査（公開審査）：令和7年12月20日（土） 一次審査通過13作品のプレゼンテーションおよび質疑応答 ・同日開催：ワークショップ（高校生と建築士による交流企画） 当日のワークショップでは、高校生の瑞々しいアイデアや感性と、建築士の知識・経験を掛け合わせ、今後の活動へ繋げることを目指しました。また、今回は他の発表者と同じグループになる編成とし、それぞれの工夫点について活発な情報交換や交流を行っていただきました。 【2】第38回 長野県青年・女性建築士の集い報告 ・各支部による実践活動の報告大会（関ブロ代表選考会）が開催されました。 ・審査集計中には、交流企画として「諏訪の酒蔵めぐり」が行われ、会員同士の親睦を深めました。なお、厳正なる審査の結果、最優秀賞には、ながの支部の「櫻ヶ岡中学校出前授業」が選出されました。
新潟	令和7年度活動報告 「ちょこっとプランニング ガタツ子スクール」を引き続き開催。 令和7年10月25日(土)、新発田市にある新潟職業能力短期大学の文化祭（創実祭）に参加させていただく形で開催。 当日は小学校高学年を中心に保護者の方も同席しながらじっくりとプラン作りに取り組む姿が見られ、作り上げられたプランも個性のある生き生きとしたものになっていました。 参加者からは『面白かった』『楽しかった』と言う自然にこぼれる言葉はもらえましたが、集客の難しさを感じ課題が残りました。 「谷村美術館と糸魚川大火からの復興のまちづくり」を開催。 令和8年5月23日(土)、建築界の巨匠 村野藤吾氏最晩年の建築物「谷村美術館」見学と 2016年12月22日の大火から復興した『糸魚川のまちづくり』を学ぶ見学会、学習会を開催しました。 会員28名+会員のお子様2名の参加で開催されました。 谷村美術館見学、大火から復興した糸魚川のまちづくりについての学習、まち歩きにはそれぞれ講師をお招きし、建築士会ならではの視点を持った見学会となりました。
愛知	【令和7年度活動報告】 ①防災セミナー（第54回建築総合展）：「今だから考える避難行動」 講師：荒木裕子氏（京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授） ②すまいのえほんワークショップ：住まいにまつわる絵本の読み聞かせと、小さいお家の紙工作を名古屋市内の保育園で実施 ③すまいのえほんワークショップを椋山女学園大学秋田研究室の学生と共同開催：小学生対象に和の空間の魅力を伝える内容で2回開催 7月：「畳のコースターをつくろう！～畳ってなあに？工作で楽しく学ぼう！～」 12月：「和室を学ぼう！ワークショップ～東山荘の和室見学とお正月飾り作り～」 ④見学研修：「MARU. Architecture 講演会／東京事務所見学」 MARU. architecture上野桜木事務所見学および講演会。講師：高野洋平氏・森田祥子氏 ⑤パネル展：豊橋市役所ギャラリースペースにて、女性委員会活動紹介および住まい・防災に関する展示を実施 ⑥定例委員会：毎月1回開催。情報発信：女性会員向けメール、ホームページ、会報誌にて実施

岐 阜

岐阜県建築士会の女性委員会は基本的に各月に定例会を開催し、それ以外の活動はセミナーや見学会、年度の最後には「気楽にらくだ会」を開催しています。また、女性委員会便り「らくだ」を年2回発行しています。令和7年度の活動は下記のとおり行いました。

6月：建築関連企業等と学生の交流サロン

7月：東海北陸ブロック会女性建築士協議会 令和7年度 前期定例(福井)会議

：セミナー「エスケー化研 建築塗材、遮熱素材の技術等セミナー」

：令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会(やまがた)

9月：見学会「国重要文化財 願興寺本堂 解体修理現場見学会」

：令和7年度 第67回建築士会全国大会おおさか大会

2月：東海北陸ブロック会女性建築士協議会 令和7年度ブロックいが大会

3月：第24回 気楽にらくだ会(座談会)

各女性委員の日常の仕事から家庭の話

岐阜県建築士会に女性委員会が出来てまもなく40周年に向けて初代委員長から立ち上げ時の話をきく

三 重

三重県では、昨年度においては6月28日に複合施設SHINDO YARDSと武家屋敷入交家の見学を行いました。

午前中に見学したSHINDO YARDSは、三重県伊賀市・JR関西本線新堂駅前に2023年11月6日に開所した、図書館・カフェ・市役所支所・金融機関が入る複合施設です。建築、芸術、ワイン、音楽、海洋、スポーツ、工学など専門書が多く、お気に入りの本に出合える場となっています。焼杉の外壁を使用することで、里山景観との調和を追求した建築物です。

午後に見学した入交家住宅は、三重県伊賀市上野相生町にある江戸時代の武家屋敷で、三重県指定有形文化財に登録されている貴重な歴史建築です。主屋・長屋門・表屋・土蔵など、江戸末期の屋敷構成がほぼ残っており、県内で唯一現存する長屋門を持つ武家屋敷です。見学会は女性会員に限らず、県内の建築士会所属の方及びそのご家族やお知り合いの方も参加可能な形を取っています。建築士会に限らず、幅広く接点を持つため、今後ともこのような見学会や、様々な勉強会等を企画していきたいと考えております。

富 山

●令和7年6月28日(土) 建築士の日イベント(集まれ!未来の建築士)

富山駅コンコースにおいて、本県の建築士会・建築士事務所協会・JIAの三会共催イベントがあり、女性委員会では小学生低学年向けのブースを担当しました。建物のペーパークラフト、住まいにちなんだ絵本の読み聞かせなどを行いました。

●令和7年9月27日(土) BIM講習会

BIMの具体的な操作方法や活用方法をわかりやすく解説いただきました。

●令和7年11月15日(土) 40周年記念事業

歴代女性委員長を招待し40年の活動を振り返りました。また同日の講習会で、活動を長く継続していくためのコツを学びました。

●活動報告書及び女性委員会だよりの発行

石 川	石川県建築士会女性委員会 活動報告要旨 女性委員会では役員会を定期的に開催し、各事業の運営や活動状況について協議するとともに、情報共有を行う。 会員相互の資質向上と情報交換を図りながら、社会貢献活動に取り組む。 令和6年能登半島地震の被災地における現状や、復旧・復興に向けた取組みに関する情報発信を行うとともに、支援活動や被災建物に関する勉強会等について、関係団体との連携も視野に入れながら状況に応じて活動を進める。 また、女性委員会担当グループによる勉強会や見学会を実施するほか、広報誌「花だより」の発行、お茶室見学会やお茶会の企画・運営などにより会員相互の交流を深める。 さらに、他委員会との交流や共同事業の企画・運営により活動の幅を広げるとともに、全国女性建築士連絡協議会、東海北陸ブロック女性建築士連絡協議会、連合会全国大会への参加並びに石川県建築士会本会・各支部・部会事業への協力を通じて、ネットワークの充実と活動の活性化を図る。
福 井	福井県建築士会女性委員会では、2013年より住教育事業として、年に1回～10回程の頻度で、小学校（又は公共施設）を訪問し、2時間の授業枠をいただいて、出前授業を行っております。内容は、「子どもたちの気づき」をテーマに、建築に関わりの深い6種類の木（杉、松、桧、ヒバ、桜、栗）を使ったワークショップと、建築や木に関するスライドを使った授業になります。 コロナ禍の休止期間を除き、10年間続けてきた事業ですが、課題が大きく2つあります。 1つ目は長い期間であったがためのマンネリ化。2つ目は人材不足です。 新しい人が活動に参加してくれれば、また違った風も吹くのではないかと期待しています。建築士会の会員が不足している中、人材確保は難しい問題です。
滋 賀	滋賀県建築士会女性委員会では、「素を知る」「滋賀を知る」「近代建築を知る」の三つの「知る」を軸に、建築士としての職能を生かし、地域の建築と暮らしをつなぐ活動に取り組んでいます。 主な活動である「Doシリーズ」では、県内外の建築や地域文化、暮らしに関わるテーマを取り上げ、見学会、講演会、まち歩き等を開催しています。 「滋賀を知る」の取組みとして、防災・減災をテーマに、地域防災アドバイザーを講師に迎え、災害時の備えや多様な視点から防災を考える講演・演習を実施しました。また、「近代建築を知る」の取組みとして、岐阜県美濃市にて「うだつの上がる町並み」見学研修を行い、古民家活用やまちづくり、木造建築、森林文化について学び、地域建築と建築士の役割への理解を深めました。 さらに、「滋賀を知る」のひとつとして、大津市堅田にてヴォーリズ建築や歴史文化資源を巡るまち歩きを行い、建築と地域文化、まちの成り立ちとの関わりを学びました。現地を歩き、建築を実際に見て、講師や参加者同士で意見交換を行うことで、知識だけでなく実践的な視点や地域を見る力を養う機会としています。

京 都	令和7年度は、下記の事業を実施しました。 ①全員会議と国の重要文化財「長楽館」の内覧 ②支部合同会議とお茶の文化を知る、「和菓子作りとお茶会体験」 ③「宮大工の技を学ぶ」奥谷組見学会 ④建築士の日「つくって学ぶ！家まもりづくり体験」 ①の長楽館は、明治の煙草王と呼ばれた実業家・村井吉兵衛の京都別邸として明治42年に建築された建物で、アメリカ人建築家J. M. ガーディナーの設計した国の重要文化財です。 ②は、宇治川のほとりに建つ、京都府茶業会館で支部合同会議とワークショップを行いました。当会館は、昭和3年に建築された木造2階建ての近代和風建築で、お茶の検品などをした建物です。 ③の奥谷組は、明治6年創業の社寺専門の工事会社です。貴重な展示資料他、普段は展示されていない、原寸場の原寸図や、その意味を教えてくださいました。 ④は、京都府瓦工事協同組合の協力を得て、子ども向けに鍾馗さんを作るワークショップを開催しました。
大 阪	大阪府建築士会青年女性委員会 活動報告 大阪府建築士会青年女性委員会では、研修部門として、次世代を担う会員の育成や、会員・委員の増強を目的に、さまざまな活動を行っています。 主な活動として、定期的には月1回の定例会および懇親会を開催しているほか、不定期で忘新年会や暑気払いなどの親睦行事も実施しています。 会員向け事業としては、大阪府建築士会主催の第68回「大阪建築コンクール」において渡辺節賞を受賞した「ATEREA GARDEN 光亜興産本社ビル」の特別見学会を開催しました。現地では、受賞者による講演会に加え、建物を直接案内していただく見学会を実施しました。 また、一般の方向けには、建築士の日記念事業「危ない我が家」を開催しました。委員会で作成した分かりやすい資料を用いながら、主に高齢期における住まいの危険箇所や、その対応策について解説するセミナーを行いました。
兵 庫	兵庫県は日本海と瀬戸内海に面し南北に長い地域であるため、会議はオンラインが中心ですが、年1回は懇親会を開催し、楽しい会を心掛けて活動しています。 令和7年度の主な活動 女性部会〔会勢強化と情報発信〕 建築文化交流事業として「歴史的建築の『読む力』を磨く～温故知新～」と題し、登録有形文化財である「姫路文学館 望景亭」の見学と、実際に改修に携わった建築士会メンバーによる講演・見学会を行いました。女性会員だけでなく、男性や一般の方も参加されました。 研究部会〔自主的な研究研修〕 ユニバーサルデザイン研究会が、5回の勉強会と、住宅改修ガイドブックの企画編集を行いました。 普及啓発部会〔市民向け普及啓発〕 「暮らしとトレンドが調和するインテリアテクニクのヒント～麦わらと糸で紡ぐ北欧アート ヒンメリ体験～」と題し、女性委員会メンバーによるインテリアセミナーと外部講師によるヒンメリWSを実施しました。 令和8年度は、青年委員会とともに、兵庫県産材木材の利活用に向けた県との合同研修会を企画しています。

奈 良	〈奈良県建築士会女性員会の活動報告〉 今年度から奈良県の女性委員長を務めさせていただきます西本翠と申します。奈良県の女性委員会の主な活動は企画部会・ふくまち部会・和室部会の3つの部会と近畿建築士会協議会女性部会です。 昨年度の活動のご紹介です。企画部会では女性委員の新規開拓・親睦交流を深める機会として淡路島の建築見学のバス旅行を行いました。ふくまち部会では「おもてなしとバリアフリー」をテーマに大阪万博の見学会を行いました。和室部会では「福祉のまちづくり」をテーマに古民家を移築再生した東吉野村の福祉施設の見学勉強会を行いました。近建女では「くらしとすまいをみつめるセミナー」の第10回記念講演を行い、これまでのセミナーの振り返りと日本建築士会連合会会長の古谷誠章氏にご講演いただきました。 これまで築いてこられた諸先輩方の歩みに学びつつ、皆さまと共により良い会の発展に努めてまいります。
和歌山	和歌山県建築士会 女性委員会では、木工教室や木育キャラバンへの参加を通じて、子どもたちに紀州材や、山の木がどのように建物に使用されているかなどを知ってもらう、木育活動を続けております。紀州材を使った木のカレンダーや時間割表を親子で作成していただいたり、作成前には、「山の木が建物になるまで」の紙芝居を行い、林業や建設業、建物に興味を持っていただき、建築士会を身近に感じていただけるような取り組みを行っております。また昨年度は大人の方を対象に、木材の採寸から始め、ノコギリで切り分け、組立てる「木のクリスマスツリー」作りも行いました。委員会はZOOMと対面のハイブリット形式で行い、仕事や子育てに忙しい世代にも参加しやすい、委員会活動を行っていきたいと思っております。
鳥 取	○学生デザインコンペティション 県内学生を対象とした文化財の空き家の利活用についてコンペを実施しました。 ○防災ワークショップ 県主催の防災事業でDIG(災害図上訓練)の講師や、昨年やまがた大会の分科会HUG(避難所運営ゲーム)の講師、地域に向けた出前授業を行いました。 ○勉強会 水木しげる記念館がリニューアルしたので、家族にも参加いただく見学会を実施しました。
島 根	島根県では会員数の自然減少が続き、減少幅も過去最大を更新している状況にあります。そうした中、会員増強と将来の担い手育成を目的として、建築士という職業を子どもたちに知ってもらい、将来的な進路の選択肢の一つとして考えてもらう活動を行っています。 その取り組みの一つとして、県内の島根県立江津工業高等学校の文化祭に参加しました。文化祭には地域の小学生も参加できる「お仕事体験」イベントも参画しており小学生、建築科の生徒、建築士の三者が交流できる機会を設けました。簡単な住宅模型の製作や間取り作成を通して、建築の楽しさや魅力を体験してもらうことができました。 また、イベントの途中には建築士と小学生、建築科の生徒のみならずその親御さんとも語り合う時間もあり、建築の仕事や将来の可能性について理解を深めてもらうことができました。その活動の影響かどうかを明確に示すことはできませんが、後日、江津工業高校の入試倍率が前年より上昇したとの報告を受けました。 このような活動には一定の成果があると確信しており、建築業界の未来を担う人材育成のためにも、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

岡山	岡山県建築士会女性部会では、令和7年度以下の活動を行いました。 □役員会（月一回、オンライン併用）、情報誌フフ発行 □6月「青年・女性建築士の集い中四国ブロックおかやま大会」2日間開催 大会参加者約300名、分科会「防災」を担当 □12月県外建築見学会（香川県） 「瀬戸内海歴史民俗資料館（れきみん）」他、香川県女性青年委員会との交流 □勉強会「化学物質過敏症」、「防災」 □介護保険を使った住宅改修講座企画準備 □10月より「建築フェス2026」準備委員会会議参加 昨年度は9年に一度のブロック大会を機に青年部会・地域づくり部会との協働や新規部会員の参加もあり、女性部会の在り方を再考する一年となりました。 今年度は会員減少や活動人員不足など多くの課題がある中で、既存・新規を問わず建築士会会員のサードプレイスの一つとなれるよう、魅力ある活動の強化・発信を進めてまいります。
広島	広島県建築士会女性委員会では、地域社会への貢献と次世代育成、会員の資質向上を軸に精力的な活動を展開しています。 2025年11月には、市民組織と連携し「たてものがたりフェスタ」にて子ども向け建築ワークショップ「とびだせアーキテクト！」を開催、ポップアップ建築作りを通じて建築の楽しさを伝えました。 2026年3月には福山市の神勝寺にて特別見学会を実施し、歴史的・文化的建築への造詣を深め会員相互の研鑽を図りました。 さらに同年5月には、呉ご当地キャラ祭の防災ブースに出展。呉工業高等専門学校の学生たちと協働し、防災プレスレット作りのワークショップを企画・運営しました。 これらの活動を通じ、地域に根差した防災意識の啓発や、産学連携による若手育成、市民への建築文化の普及に大きく寄与しています。今後も多角的なアプローチで社会に開かれた委員会活動を推進してまいります。
山口	建築士会女性委員会（部会）活動報告要旨 ・女性部交流会「柳井シークレットミュージアム」白壁の町の中で、謎解きをしながら建築物やアートをめぐる。（参加者10名） ・広報活動 「かわら版」を毎月作成しInstagramとメールにて女性部の活動報告や企画の案内を配信 【計画中】 ・地域交流イベント「小学校児童クラブでの防災パラコードWS」（8月） ・地域交流イベント（青年部と合同）「木育を主旨とした地域イベントで、県産材を利用したWSを多数開催」（8月） ・研修会「庭づくり勉強会」第二弾（9月） 造園会社の社長さんを講師に、住宅の外構計画の実践的な指導をしていただく ・折り紙建築WS（12月） ポップアップカード（クリスマスのグリーティングカード）のWS 重要文化財 下関旧英国領事館内にて、領事館の120周年にあわせ開催 建物の説明や煉瓦積みの仕様についての解説も行う、主催は女性部、共催として日本遺産協議会と下関旧英国領事館が参加

徳 島	男女参画委員会前年度の活動は、新入会員が少ない上、会員減少も顕著であり、若手や子育て世代の会員を増やしたいという思いで、下記のような気楽に参加できる見学会や勉強会を数多く開催しました。 また、建築士会の周知・アピールの為、一般の方でも参加しやすい内容にと心がけ募集し、少数ですが参加していただけることが出来ました。 ・井上味噌醤油蔵見学会（おいしいお味噌付！） ・坂東商店(古民家再生物件)建物見学＋藍染め体験 ・3Dプリンタによる建築模型の製作体験講座（徳島文理大学の教員、学生が講義・指導） ・本楽寺見学会＋お食事会＋お茶会（寺院建築や茶室、吉野川を借景とした石庭を見学） 他、他支部や委員会との共同イベントも開催し交流を深めました。
香 川	R7年度は、2026年青年・女性建築士の集い中四国ブロック香川大会、2027年建築士会全国大会かがわ大会の両大会に向けて、青年委員会と協力し準備を進めてまいりました。また、青年委員会との交流会や、隣県岡山県建築士会女性部会との交流会等、委員会や県の枠を超えて交流することができました。 R6年度よりの継続事業、一級建築士設計製図試験課題類似見学会」（9/4開催：8名参加）の他、新たな事業として、カードゲームを通して防災意識を高める防災避難カードゲーム「ダイレクトロード」（5/9、3/7の2回開催：参加者計16名）や、SDGsについて更なる知見を広げるための「廃棄物処理施設見学会」（11/24開催：参加者9名）、新規登録者対象見学会（3/11開催：新規9名計19名参加）などの事業を行いました。事業を通して、初めて女性委員会の事業にご参加を頂けた会員の方や、新会員となられた方もおり、今年度の女性委員・会員増員へとつながりました。
愛 媛	令和7年度 【活動報告】 近年、全国各地で大地震が頻発する中、南海トラフ巨大地震の想定区域である愛媛県においても、建築士が果たすべき役割は多岐にわたっています。そこで、沈下修正工事や家起こしで豊富な実績を持つ曳家岡本直也氏をお迎えし、地震に強い建物づくりや被災後の正しい住宅再生工法に関する講演会を開催いたしました。被災した建物を正しく直し、未来へ繋ぐための建築士の役割を深く学ぶ貴重な機会となりました。 また、2023年に重要伝統的建造物群保存地区に指定された宇和島市「岩松の町並み」の見学会を実施しました。精蠟や酒造業で栄えた当時の美しい町並みや河川の景色を散策しながら歴史的建造物の魅力に触れたほか、改修中現場の躯体があらわになった様子も見学でき、建築士として非常に貴重な学びの時間を共有することができました。昼食時には秋晴れのもとで参加者同士がお弁当を囲んで交流を深め、学びと親睦の両方が詰まった充実した見学会となりました。 今年度も、会員の皆さんから「学びたい！」「やってみたい！」の希望を募りながら、より有意義な活動ができるよう様々な企画を考えていければと思います。

高 知

R7年度 高知県建築士会女性委員会 活動報告

- ・ 定例勉強会（青年委員会主催含む）を7回開催。現場研修・見学会、大径材利用、地盤改良工法、イベント視察、罹災証明や防災など幅広いテーマを扱い、延べ60名程が参加した。
- ・ こどもが運営するまち「とさっ子タウン」。県下の小4～中3生500名が参加する「まち」に「建築デザイナー」ブースを出展。今年度は「本部」の設計コンペを開催した。参加者の作品は市民による投票で選ばれ、最優秀作品は翌年「まち」内に建設される。（R7.8.16-17）
- ・ 第46回サマーセミナーを林雅子氏設計の「海のギャラリー」にて開催。講師には建築家 安田幸一氏（東京工業大学名誉教授）をお迎えし「モダンイズム住宅を読み解く」というテーマでご講演いただき66名が参加。講演後にはテラスで懇親会を開催し、本場のカツオのタタキもご堪能いただいた。（R7.9.27）
- ・ 居住支援研究会は、おおさか大会：街中（空き家）セッションで事例発表を行った。また、中四国Bまちづくり委員長会議、全国まちづくり会議inみやぎにも参加。R6年度に行った事例を「高知県空き家活用コンテスト」に応募し「優秀賞」を受賞した。
- ・ その他、R8年度若手建築志（士）交流会in高知の準備会を立上げ、今秋の開催に向け準備を進めている。毎年恒例の新春会には女性30名が参加し、異業種交流を楽しんだ。（R8.3.25）
- ・ R7年度より女性委員会の存続や意義についての議論を進めており、会員向けのアンケートの実施や、青年委員会との事業統合、予算配分などについて引き続き協議していく予定。

福 岡

◆2025年九州ブロック研究集会「建築士の集い福岡大会」開催

建築士の集い福岡大会では「伝統と革新」をテーマに、太宰府天満宮の御本殿の大改修に際して仮殿の改修を手掛けられた藤本壮介氏をお招きした講演会や、福岡市都心部の再開発や歴史・文化資源を題材とした分科会を実施しました。「アジアの交流拠点都市」を目指す福岡ならではの研究集会を通して、未来の都市を考える時間となりました。

◆ものづくり・お仕事体験ワークショップ

福岡市主催のイベントへ継続して参加し、子どもたちを対象とした小さな木の家づくりやイスキット組み立てのワークショップを行いました。建築やものづくりの楽しさを体験してもらい、建築への興味や職業理解を深める機会となりました。

◆講習会「建物の色彩計画を学ぶ」

建築の色彩計画について、URの色彩計画などを手掛ける専門家、有限会社クリマ依田彩氏による講習会を行いました。建物の色彩を考えるときのポイントや具体的な流れなど、建築の色彩計画に特化した内容でした。実際の建物で色彩計画を行うグループワークの時間もあり、実践的で楽しかったとの感想がありました。

佐 賀

◇県内会員の研鑽や会員同士のつながりを深める【拡大協議会】◇

青年委員会と協力し『佐賀の山に学び 佐賀の木にふれ 食べてあそぶ』をテーマとして、しゃくなげ湖水上競技場の見学や木のジャングルジム「くむんだー」組立て体験等を実施。

懇親会は、家族と一緒に参加できる交流の場となるようアットホームな雰囲気計画。

◇女性委員会企画【定例会】◇

竣工間際の施設見学会を開催

吉野ヶ里歴史公園の無料エリアに位置する気軽に立ち寄れる体験型複合施設『スノーピークグラウンズ吉野ヶ里』

キャンプ好きにはもちろん、歴史遺跡を望みながらカフェやレストランでゆったりと過ごせる魅力的な施設。参加者は竣工後の姿をイメージしながら見学し、随所に興味を惹かれていた。キャンプで集う仲間との交流や、遺跡を眺めながら味わうコーヒー、家族みんなで楽しめる時間など、新たな企画のヒントが詰まった見学会となった。

長 崎

【令和7年度長崎県活動報告】

令和7年度は、青年委員会と女性委員会が連携し、会員相互の交流促進および建築士会活動の活性化を目的として、各種事業に取り組みました。限られた人数や予算の中ではありましたが、委員会メンバーが創意工夫を重ねながら活動を進め、建築士会の魅力発信に努めました。

毎年恒例の親子木工教室・そうめん流し交流会では、ティッシュボックス製作やそうめん流し、モルックを通じて参加者同士の親睦を深めました。また、住宅フェアでは無料住宅相談や新聞紙を活用したエコバッグ作りを実施し、来場者の皆さまに建築士会の活動を知っていただく機会となりました。

さらに、会員増強事業として、一級・二級建築士製図試験課題に関連した建物見学会を開催し、延べ54名の非会員の方々にご参加いただきました。

女性委員会独自の継続事業である「和の空間」では、島原市内の3物件を調査・視察し、地域に残る歴史的建築物の特徴や保存・活用のあり方について学びました。これまでの調査物件数は累計22物件となり、地域の歴史的建築物の価値や魅力を再認識するとともに、その継承の重要性について理解を深める機会となっています。

今後も青年委員会・女性委員会が協力し、それぞれの視点や強みを活かした活動を継続することで、会員同士のつながりを深めるとともに、建築士会の魅力を広く発信してまいります。

熊 本

熊本県建築士会女性部会では、“できるしこ”をモットーに活動をしています。“できるしこ”というのは熊本弁で、「できる範囲で」という意味です。仕事が忙しい会員、子育て中の会員、様々な状況の会員それぞれが無理なくできる範囲のことを協力しながら行い、学びを深めていければと考えています。

令和7年度の活動

- 住まいづくり相談会（毎月第4土曜日）：20年以上続けている相談会です。場所や開催方法を変えながら続けています。
- 手芸ワークショップ及びランチ会：つまみ細工でブローチを作る手芸のワークショップを開催しました
- 九州ブロック研究集会「建築士の集い」熊本大会の運営協力：熊本城ホールで6/20開催
- かわら版の発行（年3～4回程度）
- SNSでの活動発信
- 昨年度は見学会を開催できませんでしたが、今年度は熊本市動物園の改修工事を見学する予定です。

大 分

第5回大分県建築女子会in日田 開催報告

2026年3月20日（金）～21日（土）に天領日田おひなまつりが開催中の日田市において伝統的建築物群保存地区である豆田町でまち歩きをしながら工事中の現場も見学、2日目は国の重要無形文化財に指定されている「小鹿田焼（おんたやき）の里」や九重町の新築茅葺屋根工事も見させていただき、地元支部の協力を得て見どころ満載な見学ツアーを開催しました。1日目は子ども1名を含む26名、2日目は19名、昨年度は大分・宮崎・鹿児島の3県共同イベントの担当県でもあり、宮崎から3名、鹿児島から4名参加していただき県を越えた交流を行いました。大変盛況となり、見学の感想を参加者同士で語り合う等意気投合し、会を増す毎により会員同士の親睦を深めることができています。次回は非会員や非活動会員の方たちの参加を重点的に意識して日頃からの声掛けや周知を行いたいと思います。

宮 崎

宮崎県建築士会 女性委員会 令和7年度「きらら研修会inみやざき」活動報告

「身近な道具を使って出来る防災＋建築士」をテーマに宮崎市にて研修会を開催しました。

過去に京都大学防災研究所地震予知センター宮崎観測所にて「地震時に私たち建築士が出来る事」として研修会を行い、その後全国各地で数多くの災害が頻発しており、災害の種類も多岐に渡りいつどのような状況下におかれるかわからない事などから、今回もう少し踏み込み防災意識を高め、不安解消できる事を目的の勉強会としたものです。

第一部で1級土木施工管理技士で防災士の方を講師に土木建築目線での自然災害の基礎講座と家庭内での防災対策（家具固定方法等）、災害時でも日常生活でも役立つロープワーク体験を行い、第二部で宮崎県立宮崎農業高校の家庭クラブの生徒さん達を講師に、生徒さん達考案のレシピを用い身近な道具と食材を使った防災食作りを行いました。生徒さん達は日頃から取り組まれているだけあって手際も良く、とても頼もしく感じました。防災活動は日々重ねて経験しておくべき大切な事だと改めて感じました。

鹿児島

○おごじょミニセミナー

建築の現場で働く女性のカバンをテーマに企画からカバン作成までを体験。

レンタルキッチンの施設見学&体験としてパン作りセミナーを開催。

大分・宮崎・鹿児島3県合同セミナーで大分県主催建築女子会in日田に参加。

○けんちくおごじょ大集合

奄美大島支部主催で奄美の伝統と文化をテーマとした建物見学研修会を開催。

○かごしま住まいと建築展

園児と小学生を対象とした間取り作成体験ブースを青年部と協働で運営。

○建築フリートーク

建築系の大学生や専門学校生を対象としたトークイベントに参加。

○支部活動

種子島の小学生を対象とした縮尺について学び体験する出前授業を開催。

沖 縄

沖縄県建築士会女性委員会では、女性建築士同士の交流と学びの機会の創出を目的に、さまざまな活動を行っています。

今年度は、県内の特色ある建築や歴史的建造物を訪れる建築見学会を開催し、建築文化や地域資源への理解を深めました。また、沖縄ならではの開放的な環境を活かしたビーチパーティを開催し、会員相互の親睦を図るとともに、世代や職域を超えた交流の場づくりに取り組みました。

さらに、「浴衣でナイト」では浴衣を着用して文化財を見学し、建築や歴史、伝統文化に触れる機会を設けました。見学後には意見交換や交流の時間を設け、会員同士のつながりを深める貴重な機会となりました。そのほか、女子会など気軽に参加できる交流会も開催し、委員会の枠を超えたネットワークづくりを進めています。

今後も、建築を通じた学びと交流を大切にしながら、女性建築士が互いに支え合い、活躍できる環境づくりに努めてまいります。

	都道府 県名	建築士会 正会員数	うち 女性会 員数	全委員会 委員数	女性 委員会 の委員数	女性委員 会以外の 女性委員 数	賛助会 員数	会長数	うち 女性数	副会長 数	うち 女性数	常務理 事数	うち 女性数	理事数	うち 女性数	支部長 数	うち 女性数	委員長 数	うち 女性数
1	北海道	3,375	250	86	10	12	37	1	1	2	0	6	2	14	1	33	0	10	2
2	青森	759	66	99	15	5	1	1	0	3	0	6	0	11	2	9	0	8	1
3	岩手	1,100		145	17	3	13	1	0	5	0	1(専務)	0	17	4	12	1	11	2
4	宮城	650	79	89	13	5	17	1	0	3	1	0	0	25	3	14	0	9	1
5	秋田	763	67	64	15	1	137	1	0	3	0	3	0	24	3	8	1	5	1
6	山形	791	85	63	9	6	10	1	0	3	1	5	1	19	2	9	1	7	1
7	福島	1,336		76	12	9	7	1	0	4	1	0	0	40	3	17	1	5	1
8	茨城	1,594	152	103	10	11	146	1	0	3	0	5	0	19	2	23	1	8	1
9	栃木	984	83	126	20	4	149	1	0	4	0	5	3	43	6	12	0	8	1
10	群馬	1,080	126	129	25	14	37	1	0	4	1	12	1	32	3	12	0	8	1
11	埼玉	1,094	93	78	14	6	97	1	0	3	0	5	2	48	8	14	1	5	2
12	千葉	1,386	152	127	13	12	89	1	0	2	1	3	0	27	2	21	1	7	1
13	東京	4,552	618	230	16	49	284	1	0	5	1	0	0	23	4	12	2	15	3
14	神奈川	2,166	319	133	11	38	95	1	0	3	1	5(内、	3	21	7	9	2	12	4
15	山梨	905	87			10	39	1	0	3	1	0	0	34	3	10	0	7	1
16	長野	1,884	168	59	15(5)	11	11	1	0	5	1	3	0	32	2	14	1	7	0
17	新潟	1,582	121	69	15	6	41	1	0	3	0	1	1	30	2	15	0	9	1
18	静岡	892	68	178	0	16	137	1	0	3	0	3	0	9	0	0	0	0	0
19	愛知	2,842	263	482	26	56	144	1	0	4	1	4	2	20	4	21	1	17	2
20	岐阜	854	72	164	25	17	57	1	0	4	1	1	0	19	1	8	1	8	2
21	三重	668	67	71	7	5	27	1	0	3	0	0	0	25	3	10	1	8	2
22	富山	1,081	140	95	5		123	1	0	2	0	5	0	28	3	6	1	9	2
23	石川	1,196	137	167	34	23	44	1	0	8	1	10	1	43	3	11	0	9	1
24	福井	842	71	139	71	18	296	1	0	4	0	4	0	21	3	7	0	8	1
25	滋賀	661	54	134	14	14	64	1	0	5	0	3	1	36	3	8	1	10	1
26	京都	1,019	128	103	16		59	1	0	7	2	2	1	35	4	8	0	11	0
27	大阪	2,095	199		33(19)		172	1	0	5	2	0	0	44	11	0	0	12	3
28	兵庫	1,175	109	67	10	5	35	1	1	4	1	0	0	31	4	14	0	6	1
29	奈良	640	61	142	15	6	55	1	0	5	1	0	0	27	2	10	0	8	1
30	和歌山	932	81	220	31	19	63	1	0	5	1	6	1	24	2	9	0	10	2
31	鳥取	592	71	82	11	5	223	1	0	3	0	1	0	26	4	3	0	6	2
32	島根	1,064	117	77	11	8	186	1	1	3	0	8	3	8	0	11	0	7	2
33	岡山	1,095	137	101	15	19	88	1	0	3	1	5	1	20	3	11	1	10	2
34	広島	1,510	140	186	21	24	46	1	0	2	1	3	1	27	5	7	1	12	3
35	山口	1,380	111	39	8	4	132	1	0	2	0	1	0	27	4	13	1	5	0
36	徳島	889	96	72	10	8	29	1	0	6	1	13	2	25	4	9	1	6	2
37	香川	1,165	134	128	9	15	108	1	0	3	1	0	0	49	5	5	0	7	1
38	愛媛	1,154	114	81	12	9	65	1	0	2	0	3	0	18	2	10	0	6	1
39	高知	813	92	69	7	18	152	1	0	3	1	0	0	21	4	14	2	8	2
40	福岡	1,852	173	131	14	7	10	1	0	6	1	1	0	9	1	14	1	8	0
41	佐賀	763	81	96	10	11	32	1	0	3	0	3	1	35	5	11	2	9	1
42	長崎	830	60	87	5	6	341	1	0	4	0	0	0	22	1	9	0	9	1
43	熊本	1,186	140	101	0	16	36	1	0	3	1	11	2	17	0	12	0	9	1
44	大分	900	101	86	4	21	90	1	0	4	0	4	2	31	2	14	0	10	1
45	宮崎	804	60	73	7	7	119	1	0	5	0	3	1	28	3	10	1	11	2
46	鹿児島	1,741	99	150	18	17	60	1	0	4	0	14	1	47	5	13	1	10	0
47	沖縄	894	115	115	20	10	84	1	0	4	1	2	0	34	4	15	1	9	1
合計		59,530	5,757	5,312	699	586	4,287	47	3	177	27	164	33	1,265	152	537	29	399	64

女性委員会以外の女性が 委員長を務める委員会	左記以外で女性が 就いている役職	女性委員会・ 部会予算 (単位：円)	建築士会の年会費（単位：円）				女性委員会・部 会の 正式名称	その他
			年会費合計	本部会 費	支部会 費（最 少）	支部会 費（最 多）		
会員増強特別委員会	監事	473,000	15,000～17,000	15,000	0	2,000	女性委員会	
無し	相談役	200,000	21,000～23,000	18,000	3,000	5,000	女性委員会	
女性委員会、岩手地域貢献活動セ ンター		100,000						
無し	無し	350,000	24,000～34,800	24,000	0	10,800	女性部会	R7年12月現在
	専務理事	220,000	15,000	8,460	6,540	6,540	女性委員会	地域貢献活動費として予算100,000円
無し	無し	650,000	14,000～15,000	9,000	5,000	6,000	女性委員会	
組織継続検討特別委員会	無し	300,000		12,000			女性委員会	
		600,000	15,600～29,000	12,000	3,600	17,000	女性委員会	
なし	監事1名	300,000	20,000	15,000	5,000	5,000	女性委員会	
なし	副委員長	474,000	20,000～14,400	13,200	1,200	6,800	女性委員会	
総務委員会	無し	350,000	16,000～22,000	12,000	4,000	10,000	女性委員会	
無し	監事1名	610,000	24,000～30,000	18,300	5,700	11,700	女性委員会	
事業委員会、環境委員会	幹事、副委員長		正会員24,000				女性委員会	
総務財務委員会、交流活動委員 会、防災・災害対策委員会	相談役1	429,360	20,000	20,000	0	0	女性委員会	
研修委員会	無し	—	17,000～18,000	15,000	2,000	3,000	女性部会	休会中のため、不明力所は空欄です
無し	無し	予算無し	24,000				青年・女性委員会	
	なし						女性委員会	※女性委員会としてではなく事業ごとで予算を 決めています。
無	無	0	30,000	30,000	0	0	無	女性委員会を設置していません
女性委員会 建築相談委員会	構造委員会副委員長、まち づくり委員会福祉部会長	985,500	18,000	0	0	0	女性委員会	
まちづくり委員会		496,000	正会員18,000	18,000			女性委員会	
防災・福祉まちづくり委員会	無し	382,970	20,000	20,000	0	0	女性委員会	
広報委員会		301,410	18,000	18,000	0	0	女性委員会	
0 副会長		800,000	15,300～33,000	12,600	2,700	20,400	女性委員会	会員増大活動費 200,000円 震災復興支援費1,800,000円
CPD・専攻建築士委員会	無し	200,000	13,800～18,000	13,800	0	4,200	女性委員会	
無し		約380,000					女性委員会	
		176,703	18,000～23,400	18,000	5,000	5,400	女性部会	
耐震インスペクション委員会、建 築表彰委員会	無し	30,000	19,800	0	0	0	青年女性委員会	
	無し	298,070	21,600	16,800	4,800	4,800	女性委員会	
無し	無し	169,500	12,000～18,600	-	-	-	女性委員会	
まちづくり・委託事業委員会	副委員長	都度申請	12,000～16,200	12,000	0	4,200	女性委員会	
女性委員会、まちづくり委員会		200,000	10,000～12,000 (正会員・準会員・資格会員)	12,000～ 60,000	11,300 円～	11,500 円～	女性委員会	青年・女性合同委員会費 【会員増強予算（100,000円）】
広報委員会	無し	300,000	13,200～15,200	10,200	3,000	5,000	女性委員会	
教育・事業委員会、ヘリテージマ ネージャー委員会	監事	800,000	12,000～17,000	12,000	0	5,000	女性部会	
まちづくり委員会、CPD制度・専 攻建築士制度委員会	会員増強チームリーダー	258,800	12,000	12,000	0	0	女性委員会	
なし	まちづくり委員会委員1 名、青年・女性委員会委員	600,000	15,000	15,000	不明	不明	女性部	
事業貢献活動委員会	無し	570,000	15,000～18,000	8,000	7,000	10,000	男女参画委員会	
無し	監事	690,000	18,000	18,000	0	0	女性委員会	入会から2年間は年会費3,000円引き
無し	無し	990,000	10,000～18,000	左記と同じ	0	0	女性委員会	無し
事業委員会	無し	410,000	12,000～15,000	12,000	0	3,000	女性委員会	
無し	無し	582,500	16,200	16,200	無し	無し	青年・女性委員会	※予算は青年・女性委員会の全体額
無		688,380	14,400～18,000	14,400	0	3,600	女性委員会	
	無し	50,000	15,600～22,800	15,600	0	7,200	女性委員会	・本部会費¥15,600のうち¥4,200支部分 ・※正会員数には準会員54名含まず
女性委員会は無く、女性会員は全 て女性部会所属となります。		300,000	14,400～20,000	14,400	600	5,600	女性部会	
—	—	1,690,000	13,000～24,400	9,600	3,400	14,400	青年女性委員会	予算については、青年および女性を合算した全 体額を記入している。全体額のうち70万円は年
ヘリテージ委員会	無し	458,000	14,000～25,000	14,000	0	11,000	未来創造部女性委員会	
		740,000	12,600～17,000	12,600	1,400	4,400	女性部会	
無し		570,000	16,800	16,800	0	0	青年女性委員会 女性部	会員増強活動費として予算20,000円

絹の国 建築つむぎ 未来へはばたけ

2026.10.16 FRI

大会テーマには、

群馬県の地域性と建築士会の願いが込められています。

群馬県は、かつて日本の近代化を支えた絹産業の拠点として発展し、
地域の暮らしやまちづくりを独自の文化とともにはぐくんできました。

本大会では、そうした歴史を背景に、

建築士が地域の人々や風土と対話しながら、
未来に向けて「人の想い」や「まち」、「建築」を

丁寧につむいでいくことの大切さを改めて見つめなおします。

「ぐんま」らしさの中から建築と向き合い、そこからの発信が、
群馬県の形の象徴でもある「鶴が舞うように」未来へはばたいていく
そんな思いを込めています。

Official web site





めがね橋 安中市



河鹿橋 伊香保温泉



吹割の滝 沼田市



だるま市 高崎市

第68回建築士会 全国大会 ぐんま大会

2026.10.16 FRI
高崎芸術劇場 / Gメッセ群馬

Japan Federation of Architects &
Building Engineers Associations

Takasaki city theatre, G-messe in Gunma.

絹の国
建築つむぎ
未来へはばたけ



富岡製糸場 Tomioka Silk Mill

会期	2026.10.16 FRI		会場	高崎芸術劇場 / Gメッセ群馬		
主催	① (公社) 日本建築士会連合会	共催	関東甲信越建築士会ブロック会	主管	(一社) 群馬建築士会	https://gunmakenchikushikai.or.jp/
大会事務局	(一社) 群馬建築士会 〒371-0846 群馬県前橋市元総社町2-5-3 群馬建設会館内 tel:027(252)2434 fax:027(252)2565					

大会概要

テーマ

絹の国 建築つむぎ 未来へはばたけ

会場 / 高崎芸術劇場（群馬県高崎市栄町9-1）
Gメッセ群馬（群馬県高崎市岩戸町12-24）

期日 / 令和8年10月16日（金）

主催 / 公益社団法人 日本建築士会連合会

共催 / 関東甲信越建築士会ブロック会
（茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、
神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、群馬県）

主管 / 一般社団法人 群馬建築士会



高崎芸術劇場 大会式典会場



Gメッセ群馬 交流セッション・大交流会会場



群馬音楽センター



猫江神社



富岡製糸場 世界文化遺産



太田市美術館・図書館



田島外平邸宅 世界文化遺産



沼万温泉 横倉邸本館



新井新町重要伝統的建造物群保存地区



旧館林市庁舎



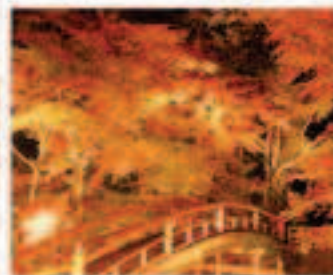
富弘美術館



高山社跡 世界文化遺産



南郷の仙窟



河原橋



伊香保温泉 石段



法師温泉



草津温泉 湯田（提供元：草津温泉観光協会） 碓氷温泉



※こちらは予定となりますので詳細はHPをご確認ください。

主なスケジュール

10月15日(木) 大会前日			
プログラム	時間	場所	
① 記者会見	13:30~14:30	エデルナ高崎	3階
② 連合会理事・士会長合同会議	15:00~17:00	エデルナ高崎	2階
③ 全国建築士フォーラム	14:00~17:00	Gメッセ群馬	2階 メインホールA
④ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会	15:30~17:30	グリーンドーム前棟	サブイベントエリア

10月16日(金) 大会当日			
プログラム	時間	場所	
⑤ 総合受付	9:00~16:00	高崎芸術劇場	2階 ホワイエ
⑥ 受付案内所	9:00~16:00	Gメッセ群馬	2階 ホワイエ
⑦ 企業出展	10:00~17:30	高崎芸術劇場	2階 ホワイエ
⑧ 物産展	10:00~17:30	高崎芸術劇場	1階 スタジオシアター
⑨ 記念展示	10:00~17:30	高崎芸術劇場	2階 ホワイエ
⑩ 休憩・食事エリア	9:00~14:30	Gメッセ群馬	1階 展示ホールA
⑪ 弁当配付	11:00~13:30	Gメッセ群馬	1階 展示ホールA
⑫ 青年委員会セッション	9:30~11:30	Gメッセ群馬	2階 メインホールA
⑬ 女性委員会セッション	9:30~11:30	Gメッセ群馬	2階 中会議室202B → 202Aに変更
⑭ まちづくりセッション①	9:30~11:30	Gメッセ群馬	2階 メインホールB
⑮ まちづくりセッション②	9:30~11:30	Gメッセ群馬	2階 メインホールC
⑯ 環境部会セッション	9:30~11:30	Gメッセ群馬	2階 中会議室201B
⑰ 群馬まちづくりセッション	9:30~11:30	群馬音楽センター	1階 ロビー
⑱ 群馬企画展示	10:00~17:30	高崎芸術劇場	2階 ホワイエ
⑲ 記念講演会	13:00~14:30	高崎芸術劇場	2階 大劇場、サブ会場4階音楽ホール
⑳ 大会式典	15:00~17:00	高崎芸術劇場	2階 大劇場、サブ会場4階音楽ホール
㉑ 大交流会	18:00~19:30	Gメッセ群馬	1階 展示ホールA

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
⑤ ⑥														
⑦ ⑧ ⑨														
⑩														
⑪														
⑫ ⑬ ⑭														
⑮														
⑯														
⑰														
⑱														
㉑														

10月17日(土)~18日(日) 地域交流見学会(エクスカージョン)			
プログラム(11コース)	時間	発着場所	
Aコース (前橋コース) 赤城山の雄偉が守るまち“まえばし”	8:10~16:45	発着:高崎駅	
Bコース (高崎コース①) レーモンドとタウトが残した高崎近代建築の軌跡	8:50~16:10	発着:前橋駅	
Cコース (高崎コース②) レーモンドから建築新へ移された高崎近代建築の流れ	8:35~17:35	高崎駅	
Dコース (桐生コース) まちを語る建築、桐生量産建を歩く	9:05~17:30	高崎駅	
	8:35~	発:高崎駅	
	~16:20	着:東武新河原駅	
	~17:20	着:高崎駅	
Eコース (館林コース) 館林・里川(日本遺産)×メタボリズム体感ツアー	7:50~	発:高崎駅	
	~15:45	着:東武館林駅	
	~16:45	着:東武行駅	
Fコース (伊香保コース) 石段の街・伊香保で感じるアートと歴史と三日月どん	8:20~17:00	高崎駅	
Gコース (高崎コース) レトロな街並みが紡ぐ、新たな文化財活用のかたち	9:00~16:30	高崎駅	
Hコース (安中コース) 電車で行く「鉄道遺産群」と温泉記号発祥の地「湯部温泉」	9:00~16:30	高崎駅	
Iコース (藤岡コース) 網の街から織田家の支配地をめぐる旅	9:20~16:30	高崎駅	
Jコース (四方コース) 四方の隅を巡る昭和レトロ保養温泉	8:35~翌16:00	高崎駅	
Kコース (藤津コース) 歴史を伝えるエリアをめぐり、藤津温泉で癒される旅	8:50~翌16:45	高崎駅	

交流セッション

青年委員会セッション

テーマ

地域実践活動発表会

運営 | 青年委員会

青年委員会セッションでは、全国の青年建築士による地域実践活動について、各ブロックから代表を選出し活動を共有する「地域実践活動発表会」を開催します。

多くの青年建築士が各々の職能を活かし、様々な団体、企業、自治体と連携しながらまちづくり、防災、人材育成など、「建築」をキーワードに日本の未来をよくするために活動しています。

このセッションでは、アイデアに富んだ全国各地の活動事例を共有し、共に学ぶことで、自身の活動や自県での展開に活かすことを目標としています。

全国の会員がつながり、互いに意見交換することが、建築士会の大きな意義です。これからの社会を担っていく青年建築士の

日時 / 令和8年10月16日(金) 9:30～11:30

会場 / Gメッセ群馬 2階 メインホールA

参加者 / 300名(予定)



青年委員会セッション

活動を是非ご覧いただき、多くの意見交換をお願いします。

建築の魅力や役割を広く伝え、地域に根ざした建築士としての姿を、青年建築士の熱意溢れる発表を会場でご覧ください！

女性委員会セッション

テーマ

「思いっきりバージョンUP! part4」

～誰もが参加したい 未来の「魅力ある建築士会」とは～

運営 | 女性委員会

日まぐしく変化する予測困難な時代においては臨機応変な対応と自らを変革し続ける力、そして多様性が求められます。このような時代の中で建築士会を未来につなげていくには、皆が意を一つにして建築士会のあり方について情報、意見交換し、再考することが重要と考えています。しずおか大会、鹿児島大会では全国の活動報告を、おおさか大会では会場の皆さま全員とグループディスカッションを行いました。今回のぐんま大会でもディスカッションを行いたいと思います。

だれもが参加しやすい、入ってよかったと思える「魅力ある建築士会に」するにはどうすればよいのか。在籍する私たち自身が

日時 / 令和8年10月16日(金) 9:30～11:30

会場 / Gメッセ群馬 2階 中会議室 202B ※

参加者 / 67名(予定)

※ 202Aに変更となりました



思いっきりバージョンUP! Part3
ディスカッション報告



おおさか大会でのディスカッションの様子

「思いっきりバージョンUP!」できるような、楽しく、時には熱く語り合える場になればと思います。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

思いっきりバージョンUP！ PART4

～誰もが参加したい 未来の「魅力ある建築士会」とは～

「建築士会って、もっとこうなったらいいのに！」

「こんな活動があったら、私も参加したいな」

そう思ったことはありませんか？

魅力あふれる建築士会を皆さんと一緒に考える

ワークショップを開催！

昨年に引続き、今年も

7つの視点から、建築士会の魅力アップ策を徹底討論！

日時・場所

2026年 10月 16日
AM 9:30～

Gメッセ群馬
中会議室 202A



7つの視点で意見交換
※ テーマは未定です

視点① ジェンダー（社会的性別）

視点② 学生について

視点③ シニア世代（55歳以上）

視点④ 働き盛り世代の建築士

視点⑤ 若い世代

視点⑥ 情報発信（イベント等の集客）

視点⑦ 建築士の認知度向上

【セッション当日の持ち物】

名刺（忘れずにご持参ください！）

お菓子（大歓迎です！みんなで楽しくシェアしましょう！）

飲み物（各自でご用意ください）

筆記用具

女性委員会 セッション概要

■参加人数：67名

■形式：ワークショップ形式・・・7グループに分かれグループトーク

- ・1グループの構成：ファシリテーター1名+8名=9名
- ・オンライン参加者で1グループ

■スケジュール

9:30 開会挨拶

9:35 グループワークの進め方説明

9:40 グループワーク

- ・自己紹介
- ・シンキングタイム
- ・グループ内意見発表
- ・グループ内まとめ

10:50 全体発表

11:20 閉会挨拶

11:25 閉会

■グループワークの内容

1. 自己紹介(10分)(各自1分、意見を言いながら自己紹介でもOK)
2. シンキングタイム(10分)
 - ・各自が意見やアイデアを付箋に書く。付箋一枚につき一意見を書く。
3. グループ内意見発表(30分)
 - ・用紙に(A3)に付箋を貼りながらアイデアを発表する。
 - ・他の意見を聞きながら意見を出し合う。
 - ・気づいたことを用紙(A3)に書いていく。
4. グループ内意見まとめ(15分)
 - ・付箋を整理しながらグループ内の意見をまとめる。
 - ・キャッチフレーズを考え、用紙に書く。
5. 全体発表 30分(3分×7グループ)
 - ・成果を発表する。

お好きなテーマのテーブルに
お座りください
受付順に席が決まっています！

過去のセッションは
下記からご覧になれます



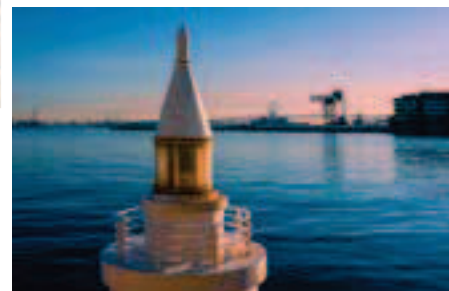
■ 日本建築士会連合会女性委員会 HP ■

<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>

令和9年度 第36回 全国女性建築士連絡協議会（神奈川）

2027かながわ大会

大会テーマ
継承と創造のはざま
で採り採る



2027年7月16日（金）-17日（土）

会場@ 横浜市開港記念会館



<https://zenkenjyo2027.my.canva.site>



全建女2027かながわ

kanagawa2027@kanagawa-kentikusikai.com





2027 Kanagawa

大会テーマ

継承と創造のはざまで
択び採る

情報は飽和し、

正確性の確認が欠かせない現代。

選択の質が、行動の質を決める。

「択び採る力」が、個人の輪郭を描き出し、

その一つ一つの判断が、

個人・組織・都市の未来をかたちづくる。

誰から学び、何処に残すのか

いま、私たちは何を択び採ろうとしているのか。

全建女2027 かながわ大会実行委員会



公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会（令和6-7年度）

石貫 方子 委員長	・大阪府建築士会
筒井 裕子 副委員長	・愛知建築士会
小林 淑子 副委員長	・宮城県建築士会
齊藤 裕美 副委員長	・北海道建築士会
吉田 幸恵 委員	・北海道建築士会（北海道ブロック）
大泉 みどり 委員	・山形県建築士会（東北ブロック）
萩原 香 委員	・群馬建築士会（関東甲信越ブロック）
長瀬 八州余 委員	・岐阜県建築士会（東海北陸ブロック）
畠中 みか 委員	・和歌山県建築士会（近畿ブロック）
渡辺 睦 委員	・岡山県建築士会（中国四国ブロック）
松田 まり子 委員	・沖縄県建築士会（九州ブロック）

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）要旨集

未来へつなぐ『まち・ひと・建築』 ～対話から生まれるかたち～

2026年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行 公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061

無断転載、複製を禁じます。

©2026 Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations